

つながる子どもの育ち

改訂版

幼保・小一貫指導をめざして

平成23年12月

山口県子育て支援連携推進委員会

は じ め に

幼児期は、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して人格形成の基礎を培う大切な時期であり、幼児期に培われた基礎は小学校以降の生活や学習の基盤となります。しかし、近年の社会的環境の著しい変化は、子どもの育ちや家庭に変化をもたらしており、「基本的な生活習慣の欠如」や「コミュニケーション能力の不足」「自尊心や規範意識の不足」「家庭や地域の教育力の低下」といった幼児期の教育の課題や「小1プロブレム」など小学校生活への適応が難しい児童の実態が指摘されています。

こうした課題への対応を図るため、国においては平成18年に改正された教育基本法において幼児期の教育の重要性が明示され、平成20年3月告示の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」では、幼稚園と保育所の保育内容の共通化が図られるとともに、小学校との連携の重要性が明記されました。また、平成20年3月告示の「小学校学習指導要領」においても幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、教員同士の合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図ることが規定されました。

このような状況を踏まえ、この度、山口県では、幼保・小一貫指導のための指導資料「つながる子どもの育ち」を改訂しました。「つながる子どもの育ち」は、平成16年3月に策定され、就学前から小学校1年生までの発達段階において遊びや生活、学習を通して育てたい力や、それぞれの時期の発達に必要な環境構成、保育士や教師のかかわり方を示すとともに、幼児期の指導が学校教育につながる道筋やそれらを踏まえた小学校での学習指導について明らかにしており、これまで県内の幼稚園・保育所・小学校等で連続・一貫した指導を工夫し行う際の指導資料として活用されてきました。

改訂版では、現行の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」の趣旨を踏まえた見直しや、「子育て支援」「特別支援教育」における取組を新しい視点として加えました。また、山口県教育委員会が平成16年度から実施している、小学校教諭を1年間幼稚園に派遣する「幼児教育長期研修」を経験した教諭による実践例も掲載し、幼保・小一貫指導の充実に向けた具体的な取組を示しております。

この「つながる子どもの育ち」改訂版の発行が、山口県における各地域の幼稚園・保育所等の幼児教育施設、小学校での連続・一貫した指導のさらなる充実を活用していただけることを期待しています。

平成23年12月

山口県子育て支援連携推進委員会
会長 相原次男

目次

- 1 「つながる子どもの育ち」の改訂にあたって . . . 1
- 2 「つながる子どもの育ち」の育ちの姿 . . . 7
- 3 「つながる子どもの育ち」の展開 . . . 17
自分でできることは、自分でしようとする子ども
人とのかかわりを大切にし、約束やきまりを守る子ども
感性豊かで思いやりのある子ども
表現を楽しみ学びに関心をもつ子ども
- 4 「つながる子どもの育ち」の充実 . . . 49
子育て支援
特別支援教育
幼児教育長期研修派遣教員からの報告
幼保・小一貫指導のためのQ&A

1 「つながる子どもの育ち」の改訂にあたって

「つながる子どもの育ち」とは？

就学前の幼稚園や保育所から小学校への円滑な接続を図るために、子どもの育ちや学びを連続的に捉え、一貫した指導を行う際の手がかりとなる指導資料として平成16年3月に策定され、これまで県内の幼稚園、保育所、小学校等で活用されてきました。

改訂の背景

- ① 平成18年の教育基本法の改正において、幼児期の教育の振興が盛り込まれたことにより、教育機能の充実を図り、子育て環境の社会的な変化を踏まえて、子育て支援を含め、幼稚園や保育所の役割の見直しが求められています。
- ② 平成20年3月に「幼稚園教育要領」が改訂されるとともに、「保育所保育指針」が改定されたことにより、保育所と幼稚園の役割や保育内容における共通化が図られ、小学校との連携の重要性が明記されました。
- ③ 平成20年3月告示の「小学校学習指導要領」において、幼稚園や保育所との連携や交流を図ることが示されるとともに、指導計画の作成と内容の取扱いにおいて、幼稚園教育の内容との関連を考慮することが明記されました。
- ④ 平成16年度から、山口県教育委員会において「幼児教育長期研修」が実施され、研修の成果を広く幼稚園・保育所と小学校の連携に役立てることが必要とされています。

連続・一貫した指導を行うために

- ① 幼児期から児童期にかけての発達特性の理解
- ② 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」に沿った幼稚園・保育所と小学校の指導内容と指導方法の理解
- ③ 各発達段階において育てたい力や経験させたい内容の整理
- ④ 一人ひとりに寄り添った支援を行うための手立ての理解
(子育て支援、特別な配慮を要する子どもへの支援など)
- ⑤ 幼児期の教育との接続を意識した小学校入学時のカリキュラムの理解

本書の活用において

- ① 日々の保育、授業に活用(環境構成や保育士、教師のかかわり方等)
- ② 各種研修会の資料として活用(園内研修、校内研修、幼保小合同研修等)
- ③ 保護者に向けた子育て支援の資料として活用

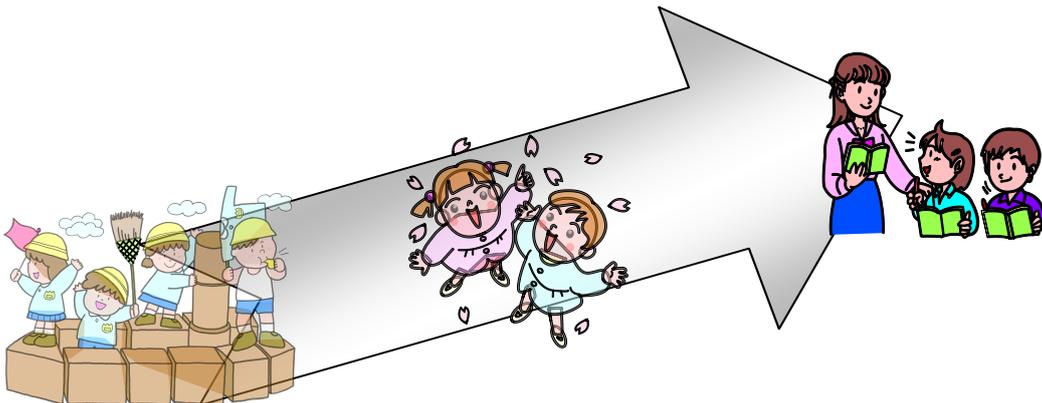
基本構想

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。

幼児期は、自我が芽生え、生活の場や他者との関係が広がり、それに伴って興味や関心を抱く対象も、生活の中で様々なものに向けられて広がっていく時期です。このため幼児期には、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して様々な対象とかわり、幼児が十分に自己を発揮することが大切です。そのことを通して人とかわる力、思考力や感性、表現する力などが育まれていきます。それは、人間として、社会とかわる人として生きていくための基礎、つまり「生きる力」の基礎となります。

また、幼児期の教育は、その後の学校教育全体の生活や学習基盤を培う役割も担っています。なぜなら、「生きる力」の育成は、幼児期からの連続性・一貫性のある教育の中で成立するものだからです。このため、幼児期の教育は、小学校以降の子どもの発達を見通した上で、幼児期に育てるべきことを幼児期にふさわしい生活の中で育てることが必要です。そのことが、小学校以降の生活や学習において重要な、自ら学ぶ意欲や自ら学ぶ力を養うことにつながります。そして、小学校においては、今の子どもの学びが幼児期にどのように育ってきたのかを見通した教育が求められます。

そこで、本書「つながる子どもの育ち」では、「生きる力」の育成をめざし、幼児期と児童期を通して育てたい子ども像を『自分でできることは、自分でしようとする子ども』『人とかかわりを大切にし、約束やきまりを守る子ども』『感性豊かで思いやりのある子ども』『表現を楽しみ学びに関心をもつ子ども』として掲げ、幼児期から小学校低学年にかけての発達段階において「育てたい力」を、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」を踏まえて示しています。またそれぞれの育てたい子ども像は、「知・徳・体」につながる内容になっています。



具体的な取組を紹介している「展開例」では、幼児期は自発的な遊びや生活自体が学びであり、総合的に発達していくという特徴を踏まえつつ、「育てたい力」「体験させたい活動」「保育士や教師の支援やかかわり」「小学校における教科・領域」を発達段階ごとに示すことにより、学校教育に引き継がれる道筋を明らかにしました。

また、近年の子どもの育ちの変化や社会の変化に対応し、子どもの人権の尊重を基本として一人ひとりに応じた支援や保護者に対する子育て支援の視点から、「特別支援教育」「子育て支援」「小学校におけるスタートカリキュラム」等の取組例も示しています。

育てたい子ども像

自分でできることは、自分でしようとする子ども

主体的によりよく生きるためには、具体的な生活場面を通して一つずつ依存から自立に向かい、望ましい自己を形成していくことが大切になります。

そこで、自分の身の回りのことなどできるだけ自分の力でやろうとする意欲を育て、できた満足感や充実感を味わいながら自立に向かうために、基本的な生活習慣、健康安全な生活の仕方、身体機能などの増進を身に付けていく過程で整理し、その過程にふさわしい活動や保育士・教師のかかわり方を示すことにしました。



人とのかかわりを大切にし、約束やきまりを守る子ども

社会生活を営むためには、人と人がよりよくかかわることが大切です。人とかかわる力は、まず、保護者や保育士、教師に対して信頼感をもつことから培われます。そして、人とかかわることで、友達によさに気付き、共に活動する楽しさを味わっていきます。また、友達との遊びや集団生活を通して、約束やきまりの必要性に気付くなど規範意識も芽生えていきます。

そこで、身近な人に信頼感をもつこと、周りの人とのかかわりの中でしてよいことや悪いことに気付き、自分で考えながら行動すること、約束やきまりを守ること、集団の中で望ましい行動ができることなどを身に付けていく過程で整理し、その過程にふさわしい活動や保育士・教師のかかわり方を示すことにしました。



感性豊かで思いやりのある子ども

美しいものや崇高なものに感動したり、人の温かさにふれ喜びを共有したりする心を育てることは、人間の行動決定の原動力として大切なことです。

そこで、イメージを豊かにする力、命を尊ぶ心、感動する心、思いやりや感謝の気持ちなどを育む過程で整理し、その過程にふさわしい活動や保育士・教師のかかわり方を示すことにしました。



表現を楽しみ学びに関心をもつ子ども

幼児期における五感を通した体験によって育まれる好奇心・探求心は、自ら学び、自ら考え、生き抜く力の基盤となります。

そこで、自然や身近な事象から数量や図形、文字や記号、物の性質や仕組み、表現や創作に興味・関心を抱き、意欲的にかかわり、小学校の教科学習へとつながる過程で整理し、その過程にふさわしい活動や保育士・教師のかかわり方を示すことにしました。



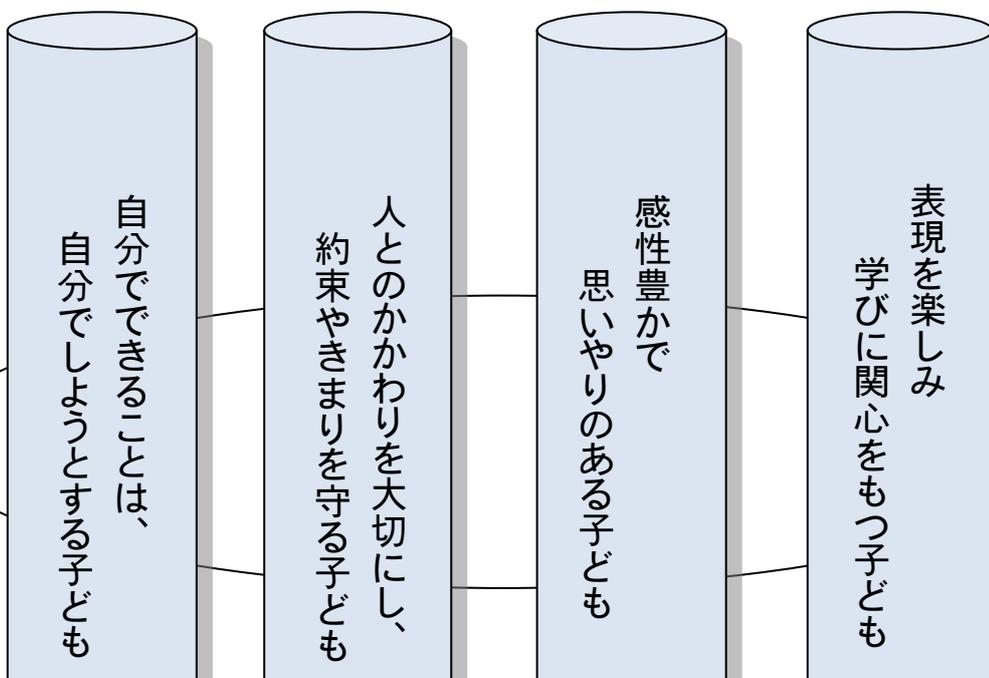
「つながる子どもの育ち」の構想図

「生きる力」の育成

小学校

教科等の系統的な学習

小学校学習指導要領



幼児期に培われる基盤

自立的な生活態度
「体」

人とかかわる力
「徳」

豊かな感性

学ぶ意欲
「知」

幼稚園・保育所

遊びや生活を通した直接的・具体的な体験

幼稚園教育要領・保育所保育指針

育てたい力

「育てたい子ども像」の実現に向け、「育てたい力」を項目で示しています。

【育てたい子ども像】

【育てたい力】

自分でできることは、自分でしようとする子ども

- 自分で考え、自分で行動する。
- 健康な生活のリズムを身に付け、見通しをもって行動する。
- 体を十分に動かして遊ぶ。
- あいさつや返事ができる。
- 食事のマナーを身に付け、食べることを楽しむ。
- 排泄の習慣を身に付ける。
- 衣服の着脱ができ、清潔にする習慣を身に付ける。
- 物の後始末や身の回りの整理整頓をする。
- 危険なことが分かり、安全に気を付けて生活する。

人とのかかわりを大切にし、約束やきまりを守る子ども

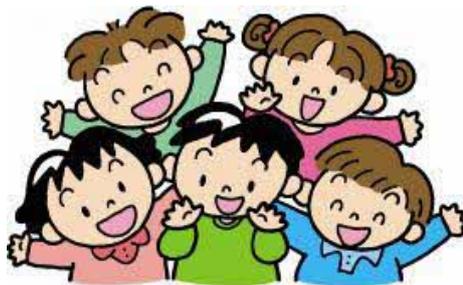
- 先生や友達とかかわり、楽しく生活する。
- よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。
- 約束やきまりの大切さに気付き、守る。
- 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- みんなで使う物を大切にする。
- 最後までやり遂げる意欲をもつ。

感性豊かで思いやりのある子ども

- 身近な自然に親しみ、美しさや不思議さなどに触れ、興味や関心をもつ。
- 生活の中で美しいものや心動かすものに触れ、イメージを豊かにする。
- 友達に親切にし、思いやりのある行動をする。
- 絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わう。
- 動植物などとかかわり、命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりする。
- 身近な人や地域の人などに、親しみや感謝の気持ちをもつ。

表現を楽しみ学びに関心をもつ子ども

- 身近な物の性質や特徴に気付く。
- 身近な物に関心をもち、考えたり試したり工夫したりする。
- 感じたことや考えたことを自分なりに表現する。
- 音楽に親しみ、歌ったり演奏したり身体で表現したりする。
- 様々な出来事の中で感動したことを伝え合う。
- 数量や図形に関心をもつ。
- 文字や記号に関心をもつ。

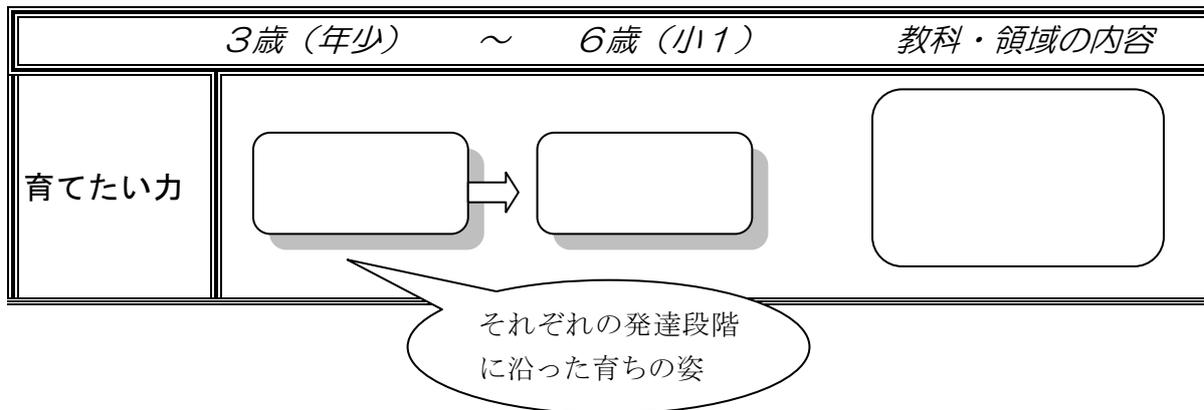


2 「つながる子どもの育ち」の育ちの姿

ここでは、「育てたい力」が身に付いていく過程を発達段階ごとに具体的な「育ちの姿」として表しています。

見方

- 1 それぞれの「育てたい力」ごとに、3歳（年少）から6歳（小1）までの発達段階に沿った「育ちの姿」を見開き2ページにわたり、示しています。
(8ページ～15ページ)
- 2 「育ちの姿」の右端には、小学校低学年における教科・領域の内容を示しています。幼児期の「育ちの姿」が、直接小学校での教科・領域につながるわけではありませんが、小学校へのつながりを見る一つの視点として例示しています。
- 3 「育ちの姿」は、あくまでも一般的な姿であり、心身の成長の発達の過程は、それぞれ異なります。各幼稚園・保育所・小学校では、一人ひとりの子どもの育ちに沿った支援を行うことが大切です。



育ちの姿

自分でできることは、自分でしようとする子ども

育てたい力	3歳（年少）	4歳（年中）
自分で考え、自分で行動する。	自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ。	友達とかかわり合いながら遊びを楽しむ。
健康な生活のリズムを身に付け、見通しをもって行動する。	食事・遊び・睡眠など生活のリズムを知る。	食事・遊びなどの生活のリズムに慣れ、自分がしたいことを見つけて取り組む。
体を十分に動かして遊ぶ。	いろいろな遊びの中で体を動かすことを楽しむ。	十分に体を動かし、様々な遊具や用具を使った運動や遊びを楽しむ。
あいさつや返事ができる。	先生の声かけを聞いてあいさつや返事をする。	日常生活に必要なあいさつをしたり、元気よく返事をしたり、みんなの前で自分の名前を言ったりする。
食事のマナーを身に付け、食べることを楽しむ。	先生や友達と一緒に食べることを楽しむ。	食事のマナーを知り、みんなと一緒に食べることを楽しむ。
排泄の習慣を身に付ける。	トイレの使い方を知り、自分で排泄する。	トイレの使い方が上手になり、排泄する習慣を身に付ける。
衣服の着脱ができ、清潔にする習慣を身に付ける。	先生の手助けを受け、自分で衣服を着脱する。 先生の手助けを受け、手洗い・足洗い・鼻かみなどをする。	自分で衣服の着脱をしたり、汚れたら自分で着替えたりする。 自分で鼻をかんだり、顔や手足を洗ったりする。
物の後始末や身の回りの整理整頓をする。	決まった場所に決まった物を片付ける。	自分の物や使った物の後片付けを進んでする。
危険なことが分かり、安全に気を付けて生活する。	先生と一緒に行動する中で、危険な場所や遊びに気付く。	危険な物や場所が分かり、遊具や用具などの使い方に気を付けて遊ぶ。

自分でできることを、自分でしようとする子どもを育てるためには、自分なりに考えて、自分の力でやってみようとする意欲を育てることが大切です。こうした意欲は、愛情に支えられた安全な環境の下で、子ども自身が、明るくのびのびと行動し、充実感を味わうことによって培われていきます。そのためには、子どもの自発性を温かく見守り、自分でできるようになった喜びを感じさせることが大切です。

5歳(年長)

6歳(小1)

教科・領域の内容(低学年)

自分なりに考え、友達と役割を分担し、協力しながら遊んだり生活したりする。	自分なりに考えて行動し、進んで学習や活動に取り組む。
集団生活のリズムが分かり、見通しをもって遊びや生活に取り組む。	小学校での生活の流れが分かり、時間に合わせて行動したり、見通しをもって学校生活を送ったりする。
友達と一緒に体を十分に動かしながら、様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	簡単なきまりや活動を工夫して、様々な運動遊び・ボールゲーム・水遊び・表現リズム遊びなどに楽しんで取り組む。
誰に対しても気持ちのよいあいさつや返事を進んでし、みんなの前で自分の思ったことを話す。	あいさつの大切さや時と場に応じた言葉づかい・動作が分かり、いろいろな人と接する。
食事のマナーを身に付け、自分の健康に関心をもって、様々な食べ物を進んで食べる。	自分にあった量を調節し、時間内に楽しんで食べようとする。準備や後片付けを進んで行う。
トイレの使い方が上手になり、排泄後、上手に後始末をする。	衛生的なトイレの使い方が分かり、学校の生活時程に合わせて排泄する習慣を身に付ける。
気候や活動に応じて衣服を調節する。 うがい・手洗い・歯磨きなどの大切さが分かり、進んで清潔にする。	活動内容に応じて自分で衣服を調節する。 うがい・手洗い・歯磨きなど、必要に応じて体や身の回りを清潔にする。
用具や道具を種類別に片付けたり、ゴミ拾いをしたりする。	身の回りの物を次に使いやすいように整理整頓する。 掃除の手順や道具の使い方が分かり、進んで掃除をする。
遊び方や遊具・用具の使い方によっては危険が生じることを知り、きまりを守って安全に遊ぶ。	登下校や学校生活での危険な場所や行動が分かり、安全な行動を考える。

【生活】

- ・自分の1日の生活を見直し、規則正しく健康に気を付けた生活を考える。
- ・学校探検を通して、施設の使い方やきまりが分かり、安心して遊んだり生活したりする。
- ・通学路の様子やその安全を守っている人々のことを知り、安全な登下校ができる。

【体育】

- ・運動に進んで取り組み、誰とでも仲良く安全に気を付けながら運動する。
- ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な運動ができるようにする。

【道徳】

- ・気持ちのよいあいさつ、言葉づかい、動作に心がけて明るく接する。

【学級活動】

- ・給食の約束やマナーが分かり、楽しい雰囲気の中で食事をする。
- ・みんなが気持ちよくトイレを使うために大切なことを話し合う。
- ・体をきれいにすることの大切さが分かり、自分できれいにする。
- ・掃除などの当番活動の役割と働くことの大切さが分かる。



育ちの姿

人とのかかわりを大切にし、約束やきまりを守る子ども

育てたい力	3歳（年少）	4歳（年中）
先生や友達とかかわり、楽しく生活する。	先生や友達と過ごすことを喜んだり、一緒に行動しようとしたりする。	好きな遊びを楽しみながら相手の気持ちに気付き、一緒に楽しく遊ぼうとする。
よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。	友達が嫌がったり泣いたりする様子から、友達の気持ちを知り、してはいけないことに気付く。	友達が泣いたり困ったりしていたら、自分の気持ちを抑えたり我慢したり、自分なりに手助けしようとする。
約束やきまりの大切さに気付き、守る。	遊びや生活の中で、順番を待ったり、譲ったりする気持ちをもつ。	遊びや生活の中で、順番や交代などの約束やきまりを守ったり、友達に教えたりする。
人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。	先生に自分のして欲しいことや困ったことを言葉で伝える。	先生や友達の話聞き、友達に自分の思いを伝えたり、友達の思いに気付いたりする。
みんなで使う物を大切に使う。	自分で取り出したり片付けたりすることを通して、自分の物と人の物を区別する。	一緒に遊ぶことを通して、自分の物と人の物とみんなで使う物の区別をする。
最後までやり遂げる意欲をもつ。	自分でできることに取り組み、できたことに満足する。	自分でできることや先生や友達に励まされてできたことに満足し、自信をもつ。

子どもたちは、人とかかわることを通して、自分の存在感や他の人々と一緒に活動する楽しさを味わうとともに、他の人に共感したり、思いやったりするようになります。幼児期において、集団生活を通して、体験を重ねながら培われる規範意識の芽生えが、小学校以降の集団や社会の様々な規範を身に付けることにつながります。さらに、きまりを守るなど、生活のために必要な習慣や態度を身に付けていくことが、人とかかわる力を育てることになります。

5歳（年長）

6歳（小1）

教科・領域の内容（低学年）

仲間意識が強まり、友達と考えを出し合ったり、工夫したりして、遊びをより楽しくしようとする。

友達と共に物事に取り組む中で、お互いに助け合いながら、自分のよさに気づき、自信をもって生活する。

友達とのけんかを経験しながら、よいことと悪いことを、自分なりに判断したり友達に相談したりして、解決しようとする。

様々な場面で、よいことと悪いことの区別をし、悪いと思うことはせず、よいと思うことを進んで行う。

みんなで楽しく遊んだり、生活したりするためには、約束やきまりを守ることが大切であると気づき、自分から守ろうとする。

約束やきまりを守る必要性に気づき、場や活動に応じて行動する。

聞くときと話すときの区別ができ、人の話を聞いたり、自分の思いを相手に分かるように話したりする。

場に応じた話し方や聞き方が分かり、人の話を最後まで聞いたり、相手に伝わるように話したりする。

一緒に遊ぶことを通してみんなで使う物を譲ったり、分けたり、一緒に使ったりする。

みんなで使う物や場の使い方が分かり、それらを大切に使う。

難しいことでも、満足のいくまで取り組み、やり遂げる楽しさや満足感を知る。

めあてをもって最後まで物事に挑戦し、達成感を味わったり、次のめあてをもったりする。

【国語】

- ・大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞く。
- ・相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話す。

【生活】

- ・集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考える。
- ・みんなで使う物や場所、施設を大切に正しく利用できるようにする。

【道徳】

- ・友達と仲良くし、助け合う。
- ・よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。
- ・約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切ににする。

育ちの姿

感性豊かで思いやりのある子ども

育てたい力	3歳（年少）	4歳（年中）
身近な自然に親しみ、美しさや不思議さなどに触れ、興味や関心をもつ。	戸外に出て、身近な草花や小動物に親しむ。	散歩に出かけるなど、園内外の自然と積極的にかかわり、遊びを楽しんだり、季節の移り変わりを感じたりする。
生活の中で美しいものや心動かすものに触れ、イメージを豊かにする。	歌を聴いたり、園内の掲示物を見たりして楽しさや美しさを感じ取る。	音楽や造形作品の楽しさや美しさを感じ取ったり、劇などを見て、自分なりのイメージをもったりする。
友達に親切にし、思いやりのある行動をする。	友達と触れ合いながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。	友達とのやり取りを重ねる中で、相手の喜びや悲しみに気付く。
絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わう。	先生のお話を喜んで聞いたり、絵本の読み聞かせなどを楽しんだりする。	お話や絵本の読み聞かせを聞いたり、ごっこ遊びなどをしたりして、イメージを広げる。
動植物などとかかわり、命の尊さに気づき、いたわったり大切にしたりする。	身近な生き物を見たり、触れたりして、驚いたり、喜んだり、親しみをもったりする。	身近な生き物に興味や親しみをもつとともに、優しく接する。
身近な人や地域の人などに、親しみや感謝の気持ちをもつ。	身近な人に親しみをもつ。	行事や活動を通して地域の人と触れ合い、親しみをもつ。

豊かな感性は、子どもたちが、身近な環境や生活の中で、美しいものや優れたものに心動かされたり人の優しさや温かさに触れ感動したりする体験の中で培われていきます。また、その感動を友達や周りの人と共有することで、より一層磨かれていきます。教師は、感動を引き出せる自然や音楽、絵本や物語などの環境を整え、子どもの感動をしっかりと受け止め、認めていくことが大切です。

5歳(年長)

6歳(小1)

教科・領域の内容(低学年)

身の回りの自然物を生活や遊びの中に取り入れ、工夫して遊び、その楽しさや美しさ、不思議さに気付く。

身近な自然物を見たり触れたりして、遊びや生活を工夫したり、楽しんだりして、自然の美しさや不思議さに関心をもつ。

音楽活動や造形活動、劇等を通して自分なりのイメージを広げたり、友達と一緒に表現したりする。

学習や生活の中で、自分なりのイメージを豊かにしたり、自分や友達の作品の美しさやよさを感じたりする。

困っている友達や年下の子どもに対して手助けをしたり、優しい言葉をかけたりする。

友達や周りの人の気持ちを理解し、励ましたり、助け合ったりするなど、思いやりのある行動をする。

絵本に親しみ、ストーリーのおもしろさや楽しさ、温かさ、悲しさなどを感じ取る。

絵本や教科書の物語などに親しみ、想像を広げたり、おもしろさや優しさ、悲しさなどに心動かされたりする。

園庭の花壇や鉢に植えた草花に水をやったり、飼育している生き物に触れたり、餌をやったりして愛情をもつ。

生き物を飼育したり、草花を育てたりする過程で、生と死を目のあたりにして、動植物に命があることに気付き、大切に育てようとする。

お年寄りや地域の人々と触れ合い、人とかかわることの楽しさや感謝の気持ちをもつ。

自分たちの生活が周りの人々に支えられていることを知り、親しみや感謝の気持ちをもつ。

【国語】

・本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。

【生活】

・身近な自然を観察したり、利用したりして、遊びや生活を工夫したり楽しんだりするとともに、そのおもしろさや自然の不思議さに気付く。

【音楽】

・曲を聴いて、楽しさや美しさを感じ取る。

【図工】

・身の回りの作品などからおもしろさや楽しさを感じ取る。

【道徳】

・身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接して、生命を大切にする心をもつ。
・身近にいる人々に温かい心で接し、感謝の気持ちをもつ。
・友達と仲よくし、助け合う。



育ちの姿

表現を楽しみ学びに関心をもつ子ども

育てたい力	3歳（年少）	4歳（年中）
身近な物の性質や特徴に気付く。	土や砂を触ったり、水を流したりして、それぞれの感触を楽しむ。	水と土、砂を混ぜるおもしろさを感じたり、水にいろいろな物を浮かべたり、風の動きに紙をとばしたりして、自然のおもしろさを楽しむ。
身近な物に関心を持ち、考えたり試したり工夫したりする。	身の回りにある自然物や様々な素材や用具に触れ、興味をもつ。	身の回りにある様々な素材に親しみをもってかかわり、遊びに取り入れて楽しむ。
感じたことや考えたことを自分なりに表現する。	思ったことや感じたことを動作や言葉で伝えようとする。	好きなものをつくったり、かいたり、自分のイメージを動きや言葉で表現したりするなど、様々な方法で表現しようとする。
音楽に親しみ、歌ったり演奏したり身体で表現したりする。	季節の歌を歌ったり、聴いたり、手遊びをしたりして楽しむ。	伴奏に合わせて歌ったり、簡単なリズムに合わせて身体を動かしたり、楽器を鳴らしたりして楽しむ。
様々な出来事の中で感動したことを伝え合う。	信頼する身近な人たちと、会話をする喜びを知る。	先生や友達の言葉や話などをよく聞き、自分自身も思いを伝えることを喜ぶ。
数量や図形に関心をもつ。	生活や遊びの中で数量と出会ったり、様々な形に触れたりする。	先生や友達とのやり取りの中で、長さや大きさを比べたり、自然物の多様な形に触れたりしながら、数や形への関心をもつ。
文字や記号に関心をもつ。	くつ箱や道具箱などに貼られた自分や友達のマークや名前に気付き、親しみをもつ。	身の回りにある様々な表示や文字などを意識し、その意味に気付く。

表現を楽しみ学びに関心をもつためには、子どもが自分から表現し、充実感や満足感を味わうことが重要です。また、子どもの興味・関心を引き出せる魅力的な環境とともに、身近な友達の存在も重要です。教師は、用具等の環境を整えたり、発達段階に合わせて活動の見通しを立て、子どもが表現する過程をしっかりと受け止めたりすることが大切になります。

5歳（年長）

6歳（小1）

教科・領域の内容（低学年）

水と土、砂の量の調節に気付き、いろいろな固さを試して楽しむ。

木の葉、木の実、雨だれなどの自然とかかわることで、季節を感じ取る。

水、土、砂などの性質を取り入れ、工夫して遊んだり活動したりする。

身近な自然を観察したり、四季の変化に気付いて生活を工夫したり、楽しくしたりする。

身の回りにある素材を使っているいろいろなものを工夫してついたり、遊んだりして楽しむ。

粘土や小枝、段ボール、クレヨン、絵の具等の材料、形、色から発想し、工夫して、かいたりついたりする。

思ったことや感じたこと、イメージしたことなどを、絵や言葉や身体表現などで表す。

様々な表現活動を楽しみ、友達の表現のよさに気付いたり、取り入れようとしていたりする。

歌を歌ったり聴いたり、曲の調子に合わせてリズムを打ったり、楽器を演奏したりして楽しむ。

音楽を楽しんで聴いたり、表現したりしながら、様々な音楽活動を楽しむ。

自分の思いや経験したことを相手に分かるように話したり、相手の思いを受け取ったりしながらやり取りを楽しむ。

経験したことや感じたことなどを順序に気を付けて話したり、質問したり答えたりして、伝え合う楽しさを味わう。

毎日の生活の中で図形や数だけでなく、前後、左右、遠近や時刻などにも関心をもつ。

数量についての感覚を豊かにし、簡単な計算、長さの比較、基本的な立体図形の特徴、物の位置関係などが分かる。

遊びを通して文字などで伝える楽しさを味わい、文字や記号の役割が分かる。

ひらがな、カタカナ、漢字を学び、本を読んだり、文章を書いたりする。

【国語】

- ・身近なことについて事柄の順序を考えながら話す。
- ・経験したことや想像したことなどについて文章を書く。

【算数】

- ・計算の意味や計算の仕方を、具体物、言葉、数、式・図などで表す。
- ・身の回りからいろいろな形を見つけたり、具体物を用いて形をついたりする。

【生活】

- ・身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともにそれらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し考える。

【音楽】

- ・歌唱、器楽、音楽づくり等の活動を通して、音楽表現の楽しさに気付く。

【図工】

- ・身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に、感覚や気持ちを生かしながら、楽しくつくる。

【体育】

- ・身近な題材の特徴をとらえたり、リズムに乗ったりして、表現リズム遊びを楽しむ。



3 「つながる子どもの育ち」の展開

ここにあげた「つながる子どもの育ち」の展開は、一つの例として紹介したものです。この展開を参考にして、それぞれの地域の幼稚園・保育所・小学校での連続・一貫した指導が推進されることを期待します。

見方

- 1 「育てたい力」を偶数ページの左枠に縦書きで示しています。
- 2 「育てたい力」について、3歳（年少）から6歳（小1）までの発達段階に沿った「育ちの姿」を、偶数と奇数の左右のページにわたり、下のような枠内に示しています。



- 3 **活** では発達段階に応じて「育てたい力」を育む場面と想定できる遊び・活動・生活を示し、写真やエピソードでその具体を示しています。吹き出しを多く使っていますが、下のような使い分けをしています。



- 4 **支** では、「育てたい力」を育む場面や個々の幼児・児童の実態に応じて、必要な教師や保育士の支援・援助やかかわり方を示しています。



自分でできることは、自分でしようとする子ども（1）

	3歳（年少）	4歳（年中）
自分で考え、自分で行動する。	<p>自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ。</p> <p>活・ 砂場等で、自分のしたい遊びをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>砂場で、S児は、容器に砂を入れたり出したりしている。そばでは、A児もS児と同じように砂を入れたり出したりしている。</p> </div> 	<p>友達とかかわり合いながら遊びを楽しむ。</p> <p>活・ 好きな遊びを通して友達とのかかわりを楽しむ。 ・ ごっこ遊びをする。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>クリームができたね。色水でしたら青色のクリームが出来たよ。</p> </div> 
	<p>支・ 教師も一緒に遊んだり、そばで見守ったりしながら、安心して遊べるようにする。 ・ 遊びに誘っても入ろうとしない幼児には、無理をせず、一人ひとりの思いを大事にしたり、子どものペースに合わせたりするようにする。 ・ いろいろな遊びに興味をもてるように、製作材料や楽器、描画できる材料等を身近に置いておく。</p>	<p>支・ 子どもの興味・関心に応じて、遊びの時間を保証する。 ・ 思いや願いがかなうように環境を用意したり、声かけをしたりする。 ・ 必要なときには教師もかかわりながら、友達とのかかわりにつながるように、声をかけたり一緒に活動できる場を整えたりする。</p>

	3歳（年少）	4歳（年中）
健康な生活のリズムを身に付け、見通しをもって行動する。	<p>食事・遊び・睡眠など生活のリズムを知る。</p> <p>活・ 楽しく生活する。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="margin: 5px;">①登園</div> <div style="margin: 5px;">②シール貼り</div> <div style="margin: 5px;">③靴の整頓</div> <div style="margin: 5px;">④遊び</div> <div style="margin: 5px;">⑤手洗い</div> <div style="margin: 5px;">⑥お弁当</div> </div>  <p>支・ 先生はスキンシップを大切に、笑顔で子どもを迎える。子どもの様子を知るために、必要に応じて保護者と話す機会をもつ。 ・ 登園したら行う「シール貼り」や「靴の整頓」は、やり方を丁寧に示し、できたところを認めながら取り組ませる。 ・ 午睡に合う落ち着いた環境を準備する。</p> <p>支・ 家庭でも規則正しい生活が大切であることを保護者に伝える。</p>	<p>食事・遊びなどの生活のリズムに慣れ、自分がしたいことを見つけて取り組む。</p> <p>支・ 幼児のもつ生活のリズムに沿いながら、活動と休息等の調和を図るようにする。 ・ 遊びが十分に満足できるようにする。 ・ 一人ひとりの育ちの状態に合わせて指導する。 ・ 子どものよさを認め、長い目で見守る。</p>

5歳(年長)

自分なりに考え、友達と役割を分担し、協力しながら遊んだり生活したりする。

活・ お店屋さんごっこ、ボール遊びをする。

S児は、紙コップに色ちり紙を入れてジュースを作る。それを見て、「私も作りたい」とA児が言う。S児は、「いいよ。ねえ、ジュースをいっぱい作ってお店屋さんにならない?」と言う。A児「お店屋さん、いいね。アイスクリームも作ってアイスクリーム屋さんも作ろうか。」と言って、S児とA児は、お店屋さんの準備を始める。



支・ 自分の思いを言ったり友達の思いを聞き入れたりしながら、遊びが展開できるようにする。
・ イメージや目的を共有し、実現できるように工夫したり、協力したりする楽しさが味わえるようにする。
・ 共通の目的に向かって友達と遊ぶ中で、問題が生じた場合は、互いに話し合いながら、遊びが楽しく展開できるようにする。

6歳(小1)

自分なりに考えて行動し、進んで学習や活動に取り組む。

活・ 新しい生活に慣れ、施設の使い方や学校のきまりが分かり、学校生活を送る。
・ 新しい友達に自分から進んでかかわる。

支・ 学校生活に慣れるよう、友達や上級生、いろいろな先生とかかわる場を設定し、楽しさが味わえるようにする。



完成したら、校長先生に見せようよ。



水道で水を汲んできたよ。一緒に使おう。

支・ 友達と協力したり、自分で考えて進んで行動したりする姿をしっかりと認める。

5歳(年長)

集団生活のリズムが分かり、見通しをもって遊びや生活に取り組む。

活・ 生活のリズムを考えながら、進んで当番活動をする。

ねえ、先生! 今日、ぼくはYちゃんと一緒にウサギとニトリの当番なんだよ。お弁当の時間が終わったら、ウサギさんににんじんをあげるんだ。ぼくたちと同じようにおなかのすいているからねえ。お弁当の後片付けを急がなくなっちゃ!

ねえ、お母さん。今日はひよこ組(年少児)のお手伝い当番の日だったよ。次に何をすればいいかよく考えて、いろいろなお世話をしたよ。難しかったけど、楽しかったなあ。

支・ 年長児として責任のある仕事に取り組ませる中で、いつ、どのようにすべきかを考えながら、生活ができるようにする。

6歳(小1)

小学校での生活の流れが分かり、時間に合わせて行動したり、見通しをもって学校生活を送ったりする。

活・ 次の学習や活動内容を意識しながら行動する。



短い針が9で、長い針が6のところから、2時間目が始まるね。その前にトイレに行こう!

支・ チャイムの合図や校内放送に合わせて行動することを学級活動等の時間に指導する。
・ 日課表や生活の流れが分かるものを掲示し、児童が主体的に活動できるように工夫する。
・ 活動に必要なものや心の準備の大切さに気付かせる。
・ 学習内容や活動内容により、単位時間の弾力化を図る。

自分でできることは、自分でしようとする子ども（2）

	3歳（年少）	4歳（年中）
体を十分に動かして遊ぶ。	<p>いろいろな遊びの中で体を動かすことを楽しむ。</p>	<p>十分に体を動かし、様々な遊具や用具を使った運動や遊びを楽しむ。</p>
	<p>支・ 先生とのスキンシップを十分にとり、子どもの心の安定を図り、先生と一緒に安心して遊べるようにする。</p>	<p>活・ すべり台、ジャングルジム、アスレチック等固定遊具に親しむ。</p>
		<p>アスレチックのつり橋が怖いAちゃん A児は、アスレチックでの遊びに誘ってもしようとしなかったが、友達の「頑張って」の言葉に励まされ、先生と一緒に渡る。 その後、日一日と自信をつけ、自分から「先生、アスレチックをしよう」と先生を誘うようになった。</p>
	<p>活・ 歌遊び、ダンス等、音楽（CD、ピアノ）に合わせて体を動かす。室内外でゲームを楽しむ。</p>	
	<p>ゲーム：いすとりゲーム、じゃんけん列車、フルーツバスケット、ハンカチ落とし、陣取りじゃんけん、影踏み、各種おにごっこ等 歌遊び：できるかな、アブラハム、伝承遊び（なべなべ、とおりゃんせ、あわぶくたつた 等）</p>	<p>支・ 先生も一緒に楽しみながら遊び、体を動かす楽しさを実感させる。</p>
<p>支・ 年中や年長の子どもの遊びを見るなどして、模倣して遊べるよう配慮をする。</p>		

	3歳（年少）	4歳（年中）
あいさつや返事ができる。	<p>先生の声かけを聞いてあいさつや返事をする。</p>	<p>日常生活に必要なあいさつをしたり、元気よく返事をしたり、みんなの前で自分の名前を言ったりする。</p>
	<p>活・ 指人形等で言葉遊びをする。（紙芝居、ペープサート、パネルシアター）</p>	<p>活・ ままごと、おうちごっこ、お店屋さんごっこ等のごっこ遊びの中であいさつをする。 ・ 身体測定や健康診断のときに、自分の名前を言う。</p>
	<p>おはようございます。</p> <p>〇ちゃん、おはようございます。</p> <p>うさちゃん、こんにちは。</p>  	<p>K児が持ってきたぬいぐるみにひもをつけ、「さあコロ、おうちに帰るよ。」と言いながらごっこ遊びを始めた。そして、ままごとコーナーに行き、「お母さんただいま。」と言うと、M児は「Kちゃん、遅かったね。おやつ食べて。」K児「お母さんありがとう。」と遊びながらあいさつの言葉を学んでいた。</p>
	<p>支・ 登園してきた子どもに「おはよう」と声をかけながら出迎える。 ・ 指人形等であいさつの大切さを知らせる。 ・ 家庭での取組をお願いする。</p>	<p>ぼくの名前は〇〇です。よろしくをお願いします。</p> 
		<p>支・ 幼稚園の生活に沿いながらその意味や使い方を知らせたり、友達との遊びの中で必要な言葉を使うようにしたりする。 ・ 出席ノートや手紙の配付時に名前を言いながら渡したり、受け取らせたりする。</p>

5歳(年長)

友達と一緒に体を十分に動かしながら、様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

活・ リレー、ドッジボール、サッカーなど遊びの中で、体を動かす。

リレーごっこ

運動会が終わり、子ども同士でリレーごっこを楽しむ姿が見られた。

S児「途中であの木のところにぶらさがってからまた走ることにしよう。」

M児「うん、それからその次にちょっと跳ぶようにしよう。」



園庭の木々を利用した障害物リレーをする。友達とルールを決めたり、工夫したりして遊ぶ姿が見られた。

支・ 先生も仲間の一員として参加し、楽しさを共感する。
・ ルールについては、個々の発達段階に応じて、子どもたちが考えるようにする。

6歳(小1)

簡単なきまりや活動を工夫して、様々な運動遊び・ボールゲーム・水遊び・表現リズム遊びなどに楽しんで取り組む。

活・ 休み時間に、友達と仲よくボールや遊具を使ったり、鬼遊びをしたりして元気いっぱい外遊びをする。

活・ 体育の時間に、各種の運動遊びに進んで参加し楽しむ。



みんなでプールに入ると楽しいね。

水にもぐったり、浮いたりすると気持ちいいね。

支・ 多様な動きをつくる運動遊びを取り入れる。



支・ きまりを守ると友達と仲よく遊ぶことや体を動かして遊ぶと楽しいことに気付かせる。
・ 体育の時間に運動の楽しさに十分ふれられるように、活動や指導を工夫する。

5歳(年長)

誰に対しても気持ちのよいあいさつや返事を進んでし、みんなの前で自分の思ったことを話す。

活・ 生活発表、劇遊び、誕生会、お店屋さんごっこ等をする。

はい！はい！
わたしの話を聞いて。

今から、誕生会を始めます！



ダンスを発表します！



支・ みんなの前で話をする時は、どんなことに気を付けたらよいか、考える場を設ける。
・ 誕生会などの行事の中で、お祝いの言葉や感謝の言葉をみんなに分かるように伝える場を設ける。

6歳(小1)

あいさつの大切さや時と場に応じた言葉づかい・動作が分かり、いろいろな人と接する。

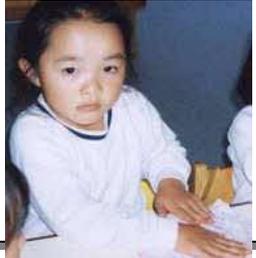
活・ 「地域のお年寄りお招き会」をする。
・ 学級活動・朝の会・授業の中で返事や発表をする。

《お招き会の様子》
地域のお年寄りをお招きして、伝統的な遊びや文化(しめ縄等)を教えてもらった。一緒に作りながら、
W児「おじいさんの縄の続きをやるうとしても、できません。教えてください。」
Mさん「私は、右縄。君は左利きだから反対にするといいよ。」
W児「おじいさん、よく分かりましたね。すごいなあ。」
自然に相手を尊敬する態度や言葉がみられた。



支・ 具体的な場面を設定して、授業中と休み時間で使う言葉が違うことに気付かせる。
・ 道徳や学級活動の時間を活用して、相手の気持ちを考えた言葉遣いや接し方について考えさせる。

自分でできることは、自分でしようとする子ども(3)

	3歳(年少)	4歳(年中)
食事のマナーを身に付け、食べることを楽しむ。	<p>先生や友達と一緒に食べることを楽しむ。</p> <p>活・ 手を洗って楽しく食べる。</p>  <p>支・ 楽しく清潔な環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入園したころは、お弁当を食べられるだけの量にする。 ・ 室内環境を工夫して、みんなで楽しく食べられるようにする。 ・ 食事前に排泄を済ませるようにする。 ・ 箸の持ち方に気を付け、お皿を持って食べるように声をかける。 	<p>食事のマナーを知り、みんなと一緒に食べることを楽しむ。</p> <p>活・ みんなで楽しく食べ、後片付けをする。</p> <p>お弁当の日は、みんな大喜び。楽しく食べた後で、「ナフキンをたたもうね!」と声をかける。しかし、S児は、なかなかたたむことができない。そこで、「四角いナフキンを半分に折ってさ・・・」と歌遊びを取り入れた。すると、S児は歌を口ずさみながらナフキンをきれいにたたむことができた。</p>  <p>支・ 食事のマナーや後片付けの大切さを知らせるために、ごっこ遊びや歌遊びを活用する。子どもの様子をよく把握して個別に指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者から家庭での食事の様子を聞いたり、園での様子を話したりしながら、食事のマナーに気を付けて、みんなと一緒に食べる喜びを味わえるようにする。
	<p>活・ 先生や友達と一緒に食べることを楽しむ。</p> <p>支・ 楽しく清潔な環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入園したころは、お弁当を食べられるだけの量にする。 ・ 室内環境を工夫して、みんなで楽しく食べられるようにする。 ・ 食事前に排泄を済ませるようにする。 ・ 箸の持ち方に気を付け、お皿を持って食べるように声をかける。 	<p>活・ 先生や友達と一緒に食べることを楽しむ。</p> <p>支・ 楽しく清潔な環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入園したころは、お弁当を食べられるだけの量にする。 ・ 室内環境を工夫して、みんなで楽しく食べられるようにする。 ・ 食事前に排泄を済ませるようにする。 ・ 箸の持ち方に気を付け、お皿を持って食べるように声をかける。

	3歳(年少)	4歳(年中)
排泄の習慣を身に付ける。	<p>トイレの使い方を知り、自分で排泄する。</p> <p>活・ 促されて、トイレに行く。</p>  <p>支・ 嫌がらずにトイレに行き、一人で使うことができるように(1)開放的で明るい雰囲気、(2)動物などの親しみのもてる掲示、(3)使いやすいトイレットペーパーの位置などを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 和式、洋式トイレの使い方を実際にやって見せ、トイレ自体に慣れさせる。 ・ 時間を決めて声をかけたり、先生と一緒にいたりする。 ・ パンツの着脱の方法やズボンやパンツを脱がない排泄の仕方を指導し、家庭にも協力をお願いする。 	<p>トイレの使い方が上手になり、排泄する習慣を身に付ける。</p> <p>活・ トイレを汚さないように(周りにこぼしたりしないように)気を付けて、排泄する。</p>  <p>支・ 和式の場合、排便時の位置など個別に指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トイレで上手にお尻を拭くことができるように、トイレットペーパーの取り方を教えたり、排便後、手を添えて拭いたりする。 ・ 個人差が大きいので、家庭にも協力を求め、一人ひとりの育ちの状態に合わせて指導する。
	<p>活・ 促されて、トイレに行く。</p> <p>支・ 嫌がらずにトイレに行き、一人で使うことができるように(1)開放的で明るい雰囲気、(2)動物などの親しみのもてる掲示、(3)使いやすいトイレットペーパーの位置などを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 和式、洋式トイレの使い方を実際にやって見せ、トイレ自体に慣れさせる。 ・ 時間を決めて声をかけたり、先生と一緒にいたりする。 ・ パンツの着脱の方法やズボンやパンツを脱がない排泄の仕方を指導し、家庭にも協力をお願いする。 	<p>活・ 促されて、トイレに行く。</p> <p>支・ 嫌がらずにトイレに行き、一人で使うことができるように(1)開放的で明るい雰囲気、(2)動物などの親しみのもてる掲示、(3)使いやすいトイレットペーパーの位置などを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 和式、洋式トイレの使い方を実際にやって見せ、トイレ自体に慣れさせる。 ・ 時間を決めて声をかけたり、先生と一緒にいたりする。 ・ パンツの着脱の方法やズボンやパンツを脱がない排泄の仕方を指導し、家庭にも協力をお願いする。

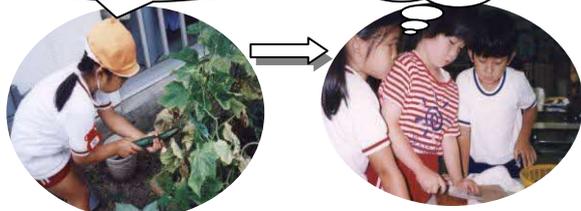
5歳(年長)

食事のマナーを身に付け、自分の健康に関心をもって、様々な食べ物を進んで食べる。

活・ 自分たちが園で育てた野菜などを使ってクッキングをする。

こんなに大きくなったよ。

おいしそうだなあ・・・



- 支**・ 野菜を自分たちで育てることで、苦手な野菜でも進んで食べようとする気持ちをもてるようにする。
- 調理して食べる活動では、衛生面や安全面に十分な配慮をしながら、楽しく取り組めるようにする。
 - 健康な体になるために、様々な食物を食べるように機会を捉えて話す。

6歳(小1)

自分にあった量を調節し、時間内に楽しんで食べようとする。
準備や後片付けを進んで行う。

活・ 学級活動の時間に、栄養の大切さについての話を聞いたり、楽しく食べるためのマナーについて話し合ったりする。

- 支**・ 栄養教諭や学校栄養職員に、
- (1) 栄養面から見た食事の大切さ
 - (2) 健康に育って欲しいという調理員の願い
- この2点を中心に話していただく。
- 食べられる量には個人差があるため調節の必要があることや、時間内に食べ終わることもマナーの1つであることに気付かせる。

活・ 給食当番活動や自分の食器の片付けに進んで取り組む。

- 支**・ 主体的に取り組めるように、活動内容や手順を掲示するなど、分かりやすく示す。



5歳(年長)

トイレの使い方が上手になり、排泄後、上手に後始末をする。

活・ トイレを使った後の始末をする。



次の人が気持ちよく使えるといいなあ。



- 支**・ トイレを使った後、次の人が気持ちよく使うことができるように、水をきちんと流すこと、戸をきちんと閉めること、スリッパをそろえることなどを指導する。
- 絵本を使って読み聞かせたり、使い方の掲示をしたり、実際に現場で教えたりすることによって、習慣付けていく。

6歳(小1)

衛生的なトイレの使い方が分かり、学校の生活時間に合わせて排泄する習慣を身に付ける。

活・ 生活時間に合わせてトイレを使う。

◇ ちょっと行って来るね ◇

T児「始まる前に、トイレに行って来るね。」

M児「わたしも行こうっと！ Nちゃんは？」

活動が始まる前に友達同士で声を掛け合い、排泄を済ませることに気を付けていた。予定に合わせた排泄の習慣が身に付いてきたことを取り上げほめた。

- 支**・ 生活時間に合わせて排泄しようとする場面をとらえ、全体の場で賞賛する。
- 活動前に排泄を済ませておくと、その後の活動を安心して楽しくできることに気付かせる。
 - 自分からトイレに行ったことや友達同士で気を付け合ったことなどを賞賛する。

自分でできることは、自分でしようとする子ども（４）

	3歳（年少）	4歳（年中）
衣服の着脱ができ、清潔にする習慣を身に付ける。	<p>先生の手助けを受け、自分で衣服を着脱する。先生の手助けを受け、手洗い・足洗い・鼻かみなどをする。</p> <p>活・ 服の着脱、ボタンかけを自分でする。 ・ 衣服をたたみ、決まった場所に片付ける。</p>  <p>支・ 指先に力が十分に入らない子どもの場合、先生が穴にボタンを入れてやり、子どもが引っ張り出す活動から始める。「トンネル通ったね。」とほめながら繰り返し指導していく。 また、服を脱ぐときは袖をもって腕を抜くようにさせると次のたたむ活動がスムーズにいくことを手本として示し指導する。 ・ 家庭でも練習してもらおうようお願いする。 ・ 衣服を置く場所は、子どもの目の高さや間隔に配慮し、シールを貼る等の工夫をする。</p>	<p>自分で衣服の着脱をしたり、汚れたら自分で着替えたりする。 自分で鼻をかんだり、顔や手足を洗ったりする。</p> <p>活・ 汚れたら自分で手足を洗い清潔にする。</p> <p>T児は素足が好きで、屋外ではいつの間にか靴を脱いでいる。部屋に入ろうとすると、いつも足洗い場の前で立ち往生。どうして足を洗ったらよいのか分からないのである。そこで蛇口をあけて、ホースを持って足を洗う様子をやってみせた。「ぼく、やってみるね。」と始めたが、水道の蛇口が開けられない。繰り返しチャレンジしながら、T児はようやくできるようになり、「先生きれいになったよ。」と気持ちよさを味わうことができた。</p>  <p>支・ 洗い場などは使いやすい環境にし、洗い方や拭き方を具体的にやってみせる。 ・ 清潔にすることの気持ちよさや自分でやったという達成感を味わわせながら自信をもたせる。</p>

	3歳（年少）	4歳（年中）
物の後始末や身の回りの整理整頓をする。	<p>決まった場所に決まった物を片付ける。</p> <p>活・ 上靴、下靴をはきかえる。 ・ 登園後、自分の物を片付けたり、降園前に帰り支度をしたりする。</p>   <p>上手にできたね。ロッカーに入れようね。</p> <p>支・ 靴箱やロッカーに名前とともにそれぞれの子どものマークになるシールなどを貼る。 ・ 入園当初は、一緒に片付けることにより、片付けの必要性を知らせ、やり方を理解させる。</p>	<p>自分の物や使った物の後片付けを進んでする。</p> <p>活・ 砂遊びやままごと遊びの後、道具を片付ける。 ・ お絵かきや粘土遊びの後、自分の物を自分のロッカーに片付ける。</p> <p>先生、この積み木はどこに片付けるの。</p> <p>ここよ。同じ物をまとめると片付けやすいね。決まったところに片付けておくと、今度使うときにもよく分かるね。</p>  <p>支・ 遊びの後に片付ける時間を設け、声をかけることにより、片付けを習慣化する。 ・ どこに片付けるかよく分かるように、片付ける場所や入れ物にマークを付け、分別しやすくする。 ・ 片付けをスムーズにするために、遊びに必要なおもちゃの量や空間を工夫し、遊びやすい環境を作る。</p>

5歳 (年長)

気候や活動に応じて衣服を調整する。
うがい・手洗い・歯磨きなどの大切さが分かり、
進んで清潔にする。

- 活**・ 歯磨きに関する絵本・紙芝居を見る。
・ 歯の大切さについて話し合い、歯磨きの大切さを理解する。

- 支**・ 歯磨きの仕方だけでなく、虫歯にならないためには、食べ物や生活とのかかわりが大切なことを具体的に示していく。



ぶくぶく。



- 活**・ 目的に応じたうがいを
する。

- 支**・ 遊びの後の手洗い、ガラガラうがい、おやつ後のぶくぶくうがいなどを習慣付ける。

6歳 (小1)

活動内容に応じて自分で衣服を調節する。
うがい・手洗い・歯磨きなど、必要に応じて体や
身の回りを清潔にする。

- 活**・ カラーテスターで磨き残しを知り、歯磨きの
仕方を見直す。

歯が生え替わる時期
なので、歯磨き指導が
大切である。そこで、カラ
ーテスターを使って歯垢
を染め出し、磨き残しがあ
ることを知らせることに
した。「真っ赤になった。」
「汚れがとれていなかった
んだ。」と驚きの声をあ
げ、自分の歯磨きの仕方
を見直す契機となった。

歯と歯ぐきの間や奥
の溝が磨けていなか
ったな。もっと一本一
本丁寧に磨かなくつ
ちや。



- 支**・ 自分で気付いたり考えたりする場を設定する
とともに、家庭と連携を図りながら習慣化する。

5歳 (年長)

用具や道具を種類別に片付けたり、ゴミ拾い
をしたりする。

- 活**・ 遊びの後、自分が使ったものだけでなく、
みんなが使った物も片付け、室内のゴミ拾い
や掃除をする。

お片付けチャンピオンは誰？



みんなで片付
けると早くで
きるね。

- 支**・ 最後まで協力して片付けるように、その
場に応じた言葉がけを工夫する。
・ ゴミ箱に入れる物の絵を表示して、分別
ができるような工夫をする。
・ 家庭でも、片付けを子どもと一緒にする
などして習慣付けてもらう。

6歳 (小1)

身の回りの物を次に使いやすいように整理整頓する。
掃除の手順や道具の使い方が分かり、進んで掃除をする。

- 活**・ 机の中を使いやすいように整理する。
・ ほうきやぞうきんの使い方が分かり進んで掃除しよう
とする。

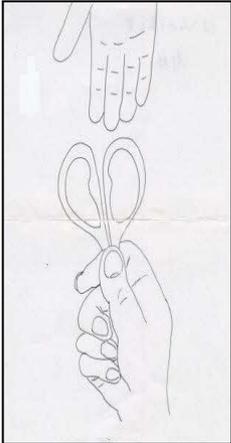
ぞうきんのしぼり方
は6年生に教えても
らったから、次は一人
できそうだよ。

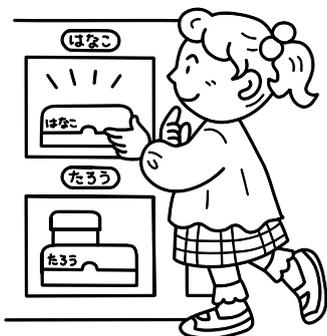
掃除道具は、決め
られた場所に片付
けるよ。



- 支**・ 入学当初は引き出しの整理の仕方やランドセルの片付
け方、ロッカーの使い方等を中心に指導する。整理の仕
方を掲示し、自分でできるように工夫する。
・ 家庭でも身の回りの整理整頓をしたり、手伝いを通し
て掃除の仕方を身に付けたりするよう、協力を求める。

自分でできることは、自分でしようとする子ども（5）

	3歳（年少）	4歳（年中）
危険なことが分かり、安全に気を付けて生活する。	<p>先生と一緒に行動する中で、危険な場所や遊びに気付く。</p> <p>活・ 固定遊具（ブランコ・すべり台など）で遊ぶ。</p> <p>安全な遊び方（例）</p> <p>ブランコ・・・・・・・・こいでいる人の前では遊ばない。 立ちこぎはしない。（年齢による）。</p> <p>すべり台・・・・・・・・滑る方からはのぼらない。 途中で乗り越えて、降りない。</p> <p>ジャングルジム・・・物を持ってのぼらない。</p> <p>その他・・・・・・・・上着のボタンは必ずとめる。 靴をかけたままで遊ばない。 靴の後ろを踏んだままで遊ばない。 箸等の長い物、ブロック等の固い物、はさみ等の危険なものを持って走らない。</p> <p>支・ 危険な遊びについて、年少児にも分かりやすいように紙芝居や絵本、ペープサート等を通して理解させる。遊びの中で危険なことが起きた場合は、その場で、どうして危険なのかを知らせるために話をする。</p>	<p>危険な物や場所が分かり、遊具や用具などの使い方に気を付けて遊ぶ。</p> <p>活・ 大型積み木で遊ぶ。 はさみなどの用具を使って、ものを作る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">積み木を高く積み って楽しいね。でも その上に上がるのは 危ないな。</p> <p>支・ その場を捉えて、具体的にどのような遊び方をしたら危ないのかを指導する。 危険な遊びをしている友達がいたら「危ないよ。」と互いに声をかけ合うようにさせる。</p>



5歳(年長)

遊び方や遊具・用具の使い方によっては危険が生じることを知り、きまりを守って安全に遊ぶ。

- 活・ 外遊びを工夫する。
- ・ 用具や遊具で工夫して遊ぶ。

雨の日、遊戯室で巧技台の組立てが始まった。物めずらしいのか年少児も様子を見ていた。K児は「みんなで持とう。」とか「はしごは1段よ。」と組立ての方向や高さを指示し、安全に遊ぶことを意識していた。先生は、「手を離さないで。」「声をかけ合っておろそうね。」などと声をかけながら、子どもたちの様子を見守った。

- 支・ 順番に並ぶ等のきまりを守ることが、安全につながることを理解させる。
- ・ 危険な事があった場合、どうすればよかったのかをみんなで考える時間を設ける。

6歳(小1)

登下校や学校生活での危険な場所や行動が分かり、安全な行動を考える。

- 活・ 遊具の正しい使い方を知り安全に注意しながら遊ぶ。
- ・ 登下校の際、安全に気を付けて通学路を歩く。



- 支・ 生活科の「学校探検」、学級活動の「雨の日の過ごし方」の学習の中で、危ない場所やそこでの行動の仕方について考えさせる。
- ・ 入学前に子どもと一緒に通学路を歩き、危険な場所についてはその場で十分に指導していただくように、仮入学の機会等を利用して家庭に協力を求める。



人のかかわりを大切にし、約束やきまりを守る子ども（1）

	3歳（年少）	4歳（年中）
先生や友達とかかわり、楽しく生活する。	<p>先生や友達と過ごすことを喜んだり、一緒に行動しようとしたりする。</p> <p>活・ ブロックやままごと遊びをする。</p>  <p>ロボットぼくも作りたいな。 見て見てこれ飛行機。 ぼくにもこれ作ってほしいな。 ぼくだって使いたいの、ブロックがない。 いいよ、ロボットでいい？ お願いがあるんですよ。一緒に言ってみようか。</p> <p>支・ 遊びを通して園生活の楽しさを知らせ、安心感を与える中で、自己主張も温かく受け止める。</p>	<p>好きな遊びを楽しみながら相手の気持ちに気づき、一緒に楽しく遊ぼうとする。</p> <p>活・ ごっこ遊びをしたり、遊びの相談をしたりする。</p> <p>4～5人集まると遊びの相談をしてから遊ぶ。 H児「鬼ごっこしようよ。」 A児「今日はままごとよ。」 H児「ままごとなら、またAちゃんがお母さんになるんやろ。」 A児「いいやん。」 K児「みんなお母さんになりたいのに、いつもAちゃんやもんね。今日は鬼ごっこにしようや。」 A児は友達のことを知り、どうしていいかわ分からなくなって泣き出してしまった。 Aちゃん、みんなもお母さんになりたいんだって。ままごとがしたくないわけじゃないみたいだよ。どうしたら、みんなで楽しくままごとができるかな。 A児「じゃあお母さんかわりばんこにしたら、一緒にままごとして遊べるかな。」 H児「いいよ。明日はMちゃんがお母さんやね。」</p> <p>支・ 友達とのいざこざで、自分の気持ちを抑え相手の意見を聞き入れたときには子どもを十分認め、できないときには方向付けをする。</p>

	3歳（年少）	4歳（年中）
子どもを悪く言わないように促す。	<p>友達が嫌がったり泣いたりする様子から、友達の気持ちを知り、してはいけないことに気付く。</p> <p>活・ 絵本・ペープサート・人形などで遊ぶ。</p> <p>子どもたちは、登園した順にままごとコーナーで遊び始める。人形で遊んでいたK児が突然大きな声を出した。1つしかない人形を巡って取り合いになっている。 K児「先生、Rちゃんが、わたしが遊んでいるミミちゃんを取るんよ。」 先生「KちゃんもRちゃんも、ウサギのミミちゃんが好きなんだね。ミミちゃんは引っ張られて、痛がつているよ。みんなが優しく抱っこしてあげるとミミちゃんも喜ぶと先生思うんだけどなあ。」 と、先生はK児とR児の気持ちを受け止め二人を優しく抱いた。幼児は自分の気持ちが落ち着くと、相手の思いや先生の言うことを受け入れるようになる。その後、「貸して!」「いいよ。」という物の貸し借りの方法を知らせていく。「貸して!」の言葉は、気の向くまま物を取ることが悪いことだと理解するために大切な言葉となっている。友達とかかわりを広げる言葉でもある。</p> <p>支・ 子ども同士がかかわれるような環境構成をし、いざこざなども経験しながら、よいことと悪いことに気付くことができるようにする。</p>	<p>友達が泣いたり困ったりしていたら、自分の気持ちを抑えたり我慢したり、自分なりに手助けしようとする。</p> <p>活・ 砂場に水を流してダムをつかって遊ぶ。 ・ ブロックや積み木を組み立てて遊ぶ。</p>  <p>Bちゃん、謝ろう。先生も手伝うから一緒に元通りにしよう。 Bちゃんが壊しちゃった。 壊したんじゃないのに。つなげるつもりだったのに。 B児は、他の子が手伝い始めると、素直に謝ることができた。</p> <p>支・ 自分のしたことが悪いことだと気付く場や時間を設け、嫌な思いをしている友達の言葉に耳を傾けさせる。 ・ 経験が次回に生きるような言葉をかけ、悪いことをした方、された方両者の気持ちに沿った援助をする。</p>

5歳（年長）

仲間意識が強まり、友達と考えを出し合ったり、工夫したりして、遊びをより楽しくしようとする。

活・ 鬼ごっこやゲーム遊びをする。



もうやめた。鬼ばかりでおもしろくないもん。

鬼が2回続いたら交代することにしよう。

いい考えだね。そうしよう。

U児がO児の気持ちを理解し、アイデアを出したことによって、また楽しく鬼遊びができるようになった。

支・ 遊びや生活の中で友達とかかわっている姿を取り上げ、共感したり認めたりする。

6歳（小1）

友達と共に物事に取り組む中で、お互いに助け合いながら、自分のよさに気付き、自信をもって生活する。

活・ 多くの体験的な学習をする。
・ 地域探検・縦割り班活動・交流活動（生活科等）などに取り組む。



ぼくは、ここにグループのめあてを書くよ。

すてきな旗ができたな。

それで、旗が完成だよ。

縦割り班活動の「グループの旗づくり」の場で

支・ いろいろな人（同学年・異学年・園児・高齢者等）と触れ合う機会を意図的・計画的に設定する。
・ 自分のめあてや役割を常に意識させたり、振り返らせたりする。

5歳（年長）

友達とのけんかを経験しながら、よいことと悪いことを、自分なりに判断したり友達に相談したりして、解決しようとする。

活・ リレー遊びをする。

戸外で運動遊びが多くなり、子どもたちは運動会を楽しみに待つようになってきていた。

紅白2チームに分かれてリレーをすることになり、チーム分けをした。走るのが苦手なB児のことでA児とN児が言い合いになった。A児「Bちゃん白ね」N児「勝ちたいからそう言うんじゃろ」A児「違うったら、なんでそんなこと言うんよ」N児「Bちゃんがかわいそう」A児は涙ぐみながら否定していた。ここで、みんなで話し合ったところ「毎日違う人と走ったらいい」「じゃんけんで決めたらいい」「Bちゃんが決めたらいい」「走るのが同じくらいの速さの人は分かれたほうがいい」などB児のことがきっかけで解決しようとする姿が見られた。

支・ 友達に悪いことをしたわけや思いを受け止め、意欲を継続できるように励ました後、行動を振り返らせるようにする。
・ 嫌な思いをしている友達の気持ちを分かるように伝える。

6歳（小1）

様々な場面で、よいことと悪いことの区別をし、悪いと思うことはせず、よいと思うことを進んで行う。

活・ 帰りの会で友達のよい行いを紹介し合う。



今日のきらりさんは、Aさんです。トイレのスリッパを揃えていたからです。

Bさんもきらりさんです。学校に来るとき、おばあさんの荷物を持ってあげました。

帰りの会のきらりさんコーナーで、よい行いを紹介すると、よいことと悪いことについて考えるようになり、意識が高まった。よい行いをした子どもとよい行いを見つけた子どもを認めるとよい行いをしようとする子どもが増えた。

支・ よい行いをほめたり、紹介したり、見つけたことを認め合うことにより、よいと思ったことを進んで、できるようにする。
・ 道徳の時間にも行動を振り返りながら、しっかりと善悪の判断ができるようにする。

人のかかわりを大切に、約束やきまりを守る子ども(2)

約束やきまりの大切さに気付き、守る。

3歳(年少)

遊びや生活の中で、順番を待ったり、譲ったりする気持ちをもつ。

活・ 手洗いやトイレの順番を待つ。



- 支**・ 割り込みをすると、押し合いになったり嫌な思いをする友達がいたりすることに気付けるようにする。
- ・ 後から来た人は列の後ろにつくなど生活の中で必要なきまりを知らせ、守ろうとする気持ちを育てる。
 - ・ 少しずつ待つことができるようになるが忘れることもしばしばである。「後ろに並んでね。」という子ども同士の声をかけ合う姿を認める。

4歳(年中)

遊びや生活の中で、順番や交代などの約束やきまりを守ったり、友達に教えたりする。

活・ プール遊びでのきまりを知る。



- 支**・ 危険なことや命にかかわることは毅然として注意し、守らなければならないきまりに気付くようにする。
- ・ きまりを守って楽しかったこと、守らなくて困ったりおもしろくなかったりしたことに気付くようにし、きまりを意識させる。

3歳(年少)

先生に自分のして欲しいことや困ったことを言葉で伝える。

活・ 色水遊びをする。



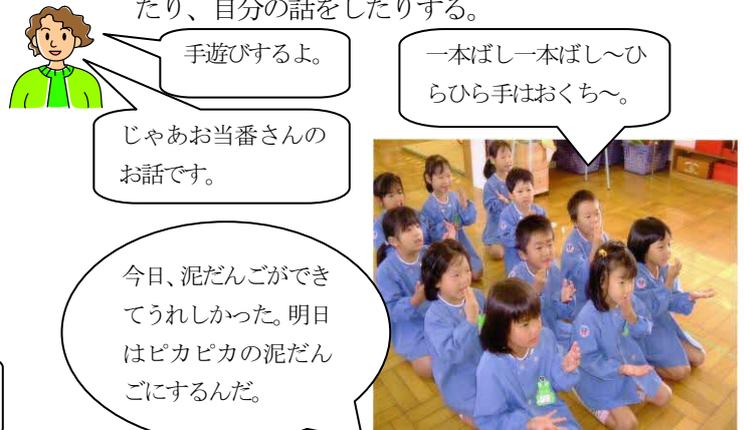
はい、どうぞ。〇〇くんもやる? 何色がいる?

- 支**・ 子どもの話を聞き、欲求に応じて物を準備したり、気持ちを汲み取ったりして、丁寧にかかわるようにする。

4歳(年中)

先生や友達の話聞き、友達に自分の思いを伝えたり、友達の思いに気付いたりする。

活・ 朝の会や帰りの会で、先生や友達の話の聞いたり、自分の話をしたりする。



今日、泥だんごができてうれしかった。明日はピカピカの泥だんごにするんだ。

- 支**・ 話をする前に、子どもたちの関心を引き付けるようなことや遊びの約束などを工夫する。
- ・ 話をする子どもの側で、一緒に聞いたり言葉を添えたりする。

人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。

5歳 (年長)

みんなで楽しく遊んだり生活したりするためには、約束やきまりを守る事が大切であると気づき、自分から守ろうとする。

活・ ボールけり遊びやドッジボールをする。



同じ人ばかり蹴っておもしろくないからやめる。

人数が足りなくなるよ。ちょっと待って。

じゃあみんなでどうするか考えよう。

ボールをもらったら、蹴っていない友達にパスしたらいい。じゃあいく

それならみんなができるからいいね。

支・ きまりの必要性を理解し納得した上で、守ろうとする気持ちをもてるようにする。

6歳 (小1)

約束やきまりを守る必要性に気づき、場や活動に応じて行動する。

活・ 生活科で学校探検をする。
・ グループでの行動の仕方や廊下の歩き方等を考え、話し合う。



お兄さんたちは学習してるから、廊下は静かに歩こうね。メンバーが離れないよう気を付けよう。

校長室はちょっとドキドキするね。静かにね。でもしっかり見ようね。



支・ 子ども自身がきまりや約束の必要性に気づけるように、具体的な活動の場で考えさせるようにする。

5歳 (年長)

聞くとときと話すときの区別ができ、人の話を聞いたり、自分の思いを相手に分かるように話したりする。

活・ 行事(誕生会・歓迎会等)の企画・司会・進行をする。

みんなが弾ける曲がいいよ。

出し物はみんなが違う意見になったね。

みんなのことを考えて話し合えたらいいね。



どれがいいか迷うね。

初めのうちは話し合いや出し物がうまくいかないことが多いが、経験を重ねるうちに上手になっていく。企画の話し合いの中で、自分の考えを伝えたり友達の話を聞いたりする態度が身に付く。

支・ みんなで一つのことに取り組みながら、異なる意見を聞いたり受け止めたりできるよう援助する。

6歳 (小1)

場に応じた話し方や聞き方が分かり、人の話を最後まで聞いたり、相手に伝わるように話したりする。

活・ 行事や集会の場で、先生や委員会のお兄さん・お姉さんたちの話を聞く。
・ 次の年に入学してくる幼稚園や保育園の友達に小学校のことを教える。

先生の話をよく聞いておこう。

大きい声でゆっくり話そう。



選書会では自分が読みたい本にしおりをはさんでください。



小学校には楽しいことがたくさんありますよ。

支・ 様々な場面で「話す聞く」活動を取り入れる。
・ 「話す聞く」活動において時・場所・相手を意識付ける。

人のかかわりを大切にし、約束やきまりを守る子ども（3）

3歳（年少）

4歳（年中）

自分で取り出したり片付けたりすることを通して、自分の物と人の物を区別をする。

一緒に遊ぶことを通して、自分の物と人の物とみんなでする物の区別をする。

みんなで使う物を大切にします。

活・ 自分で使った物の後始末をする。



道具箱の中をきれいにしているね。お片付けが上手だね。

先生、クレヨンとハサミでいいよね。

僕のハサミがないよ。どうしよう。

ちゃんと、くまのマークに入れたかな？

活・ 園庭の遊具で遊ぶ。



ダメ！ R君に貸してもらって！

R君もダメって。みんなでするものだから貸してよ！

貸してよ！

ぼくが先に乗ったんだからダメ！

だったらこれをつなげてよ！

T君 いいこと思いついたね。

支・ 持ち物の置き場所にはマークを貼り、自他の区別が付き、もとの場所に戻せるように環境を整える。

- 自分の使った物を自分で片付けている姿を認め、物を大切にする気持ちがもてるようにする。

支・ 遊具を使って十分に遊ぶ中で、友達とのかかわりやトラブルを経験し、一緒に遊具を使うことの楽しさや大切さを感じられるようにする。

3歳（年少）

4歳（年中）

自分でできることに取り組み、できたことに満足する。

自分でできることや先生や友達に励まされてできたことに満足し、自信をもつ。

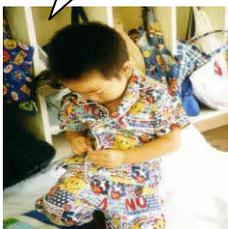
最後までやり遂げる意欲をもつ。

活・ 登降園時の持ち物の始末をする。

- 衣服の着脱、ボタンかけを自分でする。



手伝わなくてもいいよ。自分でするよ。



初めはなかなか思うようにたたむことができず、くちゃくちゃでもたたんだつもりでいる。「手をボタン」「もう一つボタン」とやり方を教えてもらい、少しずつ形になってくる。そのうち「一人でする！」と言い、たたむと得意そうに見せる。

活・ 縄跳び遊びをする。



前に回してびよん。こうやるとぶんよ。やってみて。

練習せんと上手にならんよ。

すごい、やったね。その調子。

見て、私もできたよ。

縄跳びやめてかけっこしよう。

支・ 自分でしようとする行動を温かく見守り、励ましたり、手を添えたりしながら、自分でやり遂げたという満足感を味わわせる。

支・ 意欲をもって一生懸命取り組んでいる姿を認めたり、励ましたりする。

5歳 (年長)

一緒に遊ぶことを通してみんなで使う物を譲ったり、分けたり、一緒に使ったりする。

- 活・ 固定遊具 (ブランコ、登り棒) で遊ぶ。
- ・ 園にあるおもちゃや絵本などで遊ぶ。



2つしかないから交代で使おうね。

わたしはずっと使っていたから、貸してあげるよ。



同じ数ずつ分けて使おうよ。

このお皿一緒に使おう。いるのを持っていってもいいよ。

- 支・ 分けたり譲ったりする姿を認める。
- ・ 公共物や公共の場を使う機会を設け、使い方や遊び方を教え、片付けまで見守るようにする。

6歳 (小1)

みんなで使う物や場の使い方が分かり、それらを大切に使う。

- 活・ 学校図書館を利用する。

6年生のお姉さんもいるよ。みんなで使う場所だから静かに読もう。



破れているページにテープがはってあるよ。みんなの本は大事にするよ。

返す日はいつかな。借りたい人が待っているから決まった日に返そう。



- 支・ 公共物や公共の場の使い方については、道徳の時間や具体的な活動を通して理解させ、実践できるようにする。

5歳 (年長)

難しいことでも、満足のいくまで取り組み、やり遂げる楽しさや満足感を知る。

- 活・ 運動会で鼓隊をする。

太鼓が重くて、肩がとても痛いけれど、がんばるよ。

太鼓の音がそろって気持ちがよかったよ。みんなでもっとやりたいな。



もう1回したいな。

- 支・ 年長児であることを自覚し、困難なことにも挑戦していくきっかけとなる活動を工夫する。

6歳 (小1)

めあてをもって最後まで物事に挑戦し、達成感を味わったり、次のめあてをもったりする。

- 活・ 持久走大会に向けて練習する。

3学期になり、持久走大会に向けて練習が始まった。体育委員会からがんばりカードが配られた。運動場を3周走ったら、1マス色を塗ることができる。一人ひとりがめあてを決めて練習に取り組む。

A児：最後まで歩かない。
B児：1日1マス塗ることができるように毎日練習する。

がんばりカード
どれだけ走ったかな～
 ◆グラウンドを1周走ったら○を1つぬる。
 ◆校舎を1周走ったら○を4つぬる。
 なまえ ()
スタート
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
 自動車学校 1.35 km
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

新記録を出した子、練習の時より順位が上がった子、惜しくも友達に抜かれてしまった子など、結果はそれぞれであるが、走り終わった後に「苦しかったけれど、がんばることができた。」などすがすがしい満足の声が聞かれる。

- 支・ めあてを意識させたり、取組を認めたりして、めあてに向かっていく過程を大切にする。
- ・ 結果のめあてではなく、過程のめあてをもたせるようにする。

感性豊かで思いやりのある子ども（1）

3歳（年少）

身近な自然に親しみ、美しい草木虫を触れ、興味や関心をもつ。

戸外に出て、身近な草花や小動物に親しむ。

- 活**・ 園庭の草花を見つけたり、摘んだり、集めたりする。
- ・ 園庭の身近な生き物を見たり、触れたり、探したりする。

（身近な動植物（タンポポ・ベンベン草・エノコロ草・シロツメ草
ダンゴムシ・アリなど）

わあ、ダンゴ虫が丸くなった！



- 支**・ 事前に季節感のある木や草花や虫のいる場所を確認し、触れ合える場所を見つけておく。
- ・ 子どもたちが身近な自然に興味関心をもってかわれるように視線を向けたり、触れたり、言葉にして子どもの気づきを喚起する。

4歳（年中）

散歩に出かけるなど、園内外の自然と積極的にかかわり、遊びを楽しんだり、季節の移り変わりを感じたりする。

- 活**・ 園外へ散歩に出かけるなどして触れた季節の自然物を、遊びや生活に取り入れる。

（草花を使ったままごと遊び、園庭の虫探し・落ち葉ひろい・木の実集めなど）



わあ、葉っぱが赤くなってる！

もうすぐ、十五夜のお月さまだよ。

- 支**・ 子どもたちが身近な自然に興味関心もてるように部屋の壁面や環境など季節感のある雰囲気をつくる。
- ・ 自然物に触れて遊べる環境を整えたり、自然事象や自然物に関する子どもたちの気づきを伝えたり、自然物を使った遊びを取り入れる。

3歳（年少）

生活の中で美しいものや心動かすものに触れ、イメージを豊かにする。

歌を聴いたり、園内の掲示物を見たりして楽しさや美しさを感じ取る。

- 活**・ 先生やお家の人の歌を聴いたり一緒に歌ったりする。
- ・ 園内の季節の壁面構成や、掲示物・飾りを楽しんで見たりかかわったりする。



私も歌いたいな。

お母さん、上手だね。

きれいだね。



- 支**・ 子どもたちが楽しさや美しさを感じるような場面や機会を設けたり、掲示物や飾りを工夫したりする。

4歳（年中）

音楽や造形作品の楽しさや美しさを感じ取ったり、劇などを見て、自分なりのイメージをもったりする。

- 活**・ 歌や演奏を楽しんで、歌ったり聴いたりする。
- ・ 影絵劇やパネルシアターを楽しんで見る。



うまくできるかな。どきどきするよ。

聴いてもらってうれしいな。

木琴の音ってきれいだな。ぼくもしてみたいな。

上手だな。きれいだな。

- 支**・ よさや美しさを認めた子どもの表情を見て、先生も共感する。
- ・ 先生は、音楽や劇などを子どもと共に楽しみ、表情や言葉で楽しさやすばらしさを伝える。

5歳(年長)

身の回りの自然物を生活や遊びの中に取り入れ、工夫して遊び、その楽しさや美しさ、不思議さに気付く。

- 活・ 身近な自然物を自分たちの生活や遊びに取り入れ、自分達の生活を豊かにする(色水遊び・どんぐりや落ち葉などを使った製作活動)。
- ・ 身近な自然とかかわる中で、知りたいことや気付いた事など自分で調べる。



色がきれいな方がオスだね!

朝顔でピンクの色水出来たよ!

- 支・ 子どもたちが身近な自然物を生活や遊びに取り入れられるよう、様々な素材や用具・図鑑等を準備する。
- ・ 子どもの気持ちをとらえて、季節の変化や自然の不思議さや美しさに気付かせたり、共感したりする。

6歳(小1)

身近な自然物を見たり触れたりして、遊びや生活を工夫したり、楽しんだりして、自然の美しさや不思議さに関心をもつ。

- 活・ 自然にできた氷を見つけたり、触れたりする。



きれいなもようができていますよ。

冷たいなあ。それに、重いよ。

- 支・ 生活科や各教科の中で、子どもが五感を通して自然と触れ合う時間を保障する。

5歳(年長)

音楽活動や造形活動、劇等を通して自分なりのイメージを広げたり、友達と一緒に表現したりする。

- 活・ 音楽や劇の公演を聴いたり見たりする。
- ・ みんなでつくった作品などを見る。



カタツムリみたいな楽器だな。

初めてみたよ。どうやって音を出すのかな。

- 支・ 子どもたちの心を揺さぶる音楽や劇などを体験させる。
- ・ 感じたことが表現でき、イメージが広げられるよう、子どものつぶやきをしっかりと認める。

6歳(小1)

学習や生活の中で、自分なりのイメージを豊かにしたり、自分や友達の作品の美しさやよさを感じたりする。

- 活・ 作品展覧会を開き、自分たちの作品を見せ合う。
- ・ 音楽や劇の公演を鑑賞したり、音楽会などで友達や上級生の演奏を聴いたりする。

これがわたしの作品です。〇〇のところがよく分かるように描こうと思いました。

色がきれいだな。僕もあんな色使ってみたいな。

楽しそうな感じがするな。

- 支・ 友達だけでなく上級生の作品や音楽に触れさせることであこがれや期待をもたせる。
- ・ 図工や音楽での鑑賞活動を大切にし、子どもの感じた楽しさやよさに共感し価値付けをする。

感性豊かで思いやりのある子ども（2）

	3歳（年少）	4歳（年中）
友達と親切につき、思いやりのある行動をする。	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">友達と触れ合いながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。</p> <p>活・ 場を共有して喜んで遊ぶ。 ・ 友達がしている遊びに興味をもち、まねをして遊ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 何してるのかな。おもしろそうだな。わたしもしようかな。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 15%;"> わたし、お皿にならべるよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 15%;"> わたし、おなべに入れる。 </div> </div> <p>支・ 先生や用具を仲立ちとして、友達と遊ぶ場を多く設定する。また、子ども同士がつながるようなかわりを心がける。 ・ 友達と遊んだことを保護者にも知らせ、家でも話を聞いてもらうようにする。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">友達とのやり取りを重ねる中で、相手の喜びや悲しみに気付く。</p> <p>活・ 気の合う友達と一緒に好きな遊びをする。 ・ 友達を誘ったり、仲間に入れてもらったりして遊ぶ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 15%;"> 先生、〇〇ちゃんが意地悪したよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 15%;"> 一緒に遊びたかっただけなのに・・・ </div> </div> <p>支・ 友達と好きな遊びが存分にできる環境を整える。 ・ 友達と思いの違いからトラブルが生じた時はお互いの気持ちをくみ取ったり、代弁したりして、双方の思いを知らせていく。</p>
		

	3歳（年少）	4歳（年中）
絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わう。	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">先生のお話を喜んで聞いたり、絵本の読み聞かせなどを楽しんだりする。</p> <p>活・ 絵本の読み聞かせを楽しむ。 ・ 指人形と遊ぶ。（例：大きなかぶ）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 15%;"> 一緒に引っ張ってみよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 15%;"> うんとこしょ、どっこいしょ。 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 20%; margin: 10px auto;"> りんご、なし・・・いろいろな食べ物が出てきたね。 </div> <p>支・ 分かりやすい内容の絵本を選ぶ。 ・ 生活の場や遊びの中で好きな絵本を自由に選べる環境を整えておく。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">お話や絵本の読み聞かせを聞いたり、ごっこ遊びなどをしたりして、イメージを広げる。</p> <p>活・ 読み聞かせや紙芝居を楽しむ。（例：はらぺこあおむし） ・ パネルシアターやラジオのお話を楽しむ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 15%;"> サラミとソーセージはどうちがうの？ </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 15%;"> それでもおなかはぺっこぺこ。 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 20%; margin: 10px auto;"> わあーすごいきれいなちょうちよになった！ </div> <p>支・ CDに合わせてパネルシアターを演じながら自然に言葉を覚えたり、イメージを広げたりできる環境（子どもが取り出して遊ぶことができる）を整える。</p>
		

5歳(年長)

困っている友達や年下の子どもに対して手助けをしたり、優しい言葉をかけたりする。

活・ お店屋さんになり
小さいクラスを招待
する。

ほくがスタンプを
おしてあげるからね。



うん



活・ 年少児と手をつなぎ遠足に
行く。

支・ 自分なりに手助けをしたり
言葉をかけたりしている姿を
温かく受け止め、かわりが
深まるようにしていく。
・ 年長児として、自覚と責任
感をもって行動している成長
を認めしっかりほめる。

6歳(小1)

友達や周りの人の気持ちを理解し、励ましたり、助け合ったりするなど、思いやりのある行動をする。

活・ 困っている友達に気付いたら、自分にできる
手助けをする。

一緒に拾ってく
れてありがとう。

クレヨンが落ちて、散
らばったんだね。
一緒に拾ってあげよう。



私も前に助けてもらった
時うれしかったから今度
は私が手助けするよ。

支・ 学校生活の様々な場面で、相手のことを考えた
行動ができた児童やグループを全体の場で取
り上げ、しっかり価値付ける。

5歳(年長)

絵本に親しみ、ストーリーのおもしろさや楽しさ、温かさ、悲しさなどを感じ取る。

活・ お話を聞いて劇遊びをする。
(例：エルマーのぼうけん)

船に乗って
出発!

島についたよー。

楽しそうだね。みんな
に教えてあげたいね。
発表会の劇にしたらど
う。



支・ 一人ひとりの発想を大切に、イメージが具
体的な活動になるよう小道具などを用意する。
・ 目に触れやすい場所に絵本を置いたり、幼児
の動線などを考えて絵本のコーナーをつくら
りする。

6歳(小1)

絵本や教科書の物語などに親しみ、想像を広げたり、おもしろさや優しさ、悲しさなどに心動かされたりする。

活・ 国語の教科書を読んで、おもしろいところや分か
ったことを発表する。
・ 学校図書館で好きな本を借りて読む。

♪おむすび おいかけ
おじいさん♪

おむすびころりん
すっとなん



支・ 読み聞かせや読書の時間を設けて、読書に親しむ機
会を設ける。
・ 読んだ本の中から好きなところを紹介したり、音読
発表会や感想の交流会などを行ったりするなど様々な
読書活動の場を設ける。

感性豊かで思いやりのある子ども（3）

	3歳（年少）	4歳（年中）
動植物をよこがかり、命の尊厳に気付き、いたわったり大切にしたりする。	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">身近な生き物を見たり、触れたりして、驚いたり、喜んだり、親しみをもったりする。</p> <p>活・ ダンゴムシを手の上に乗せて遊ぶ。 ・ バッタ、カマキリ、コオロギなどを見つけて追いかけて遊ぶ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; font-size: x-small;">カマキリがおったよ。捕まえて。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; font-size: x-small;">静かにして！逃げちゃうよ。</div> </div>  <p>支・ 事前に生き物のいる場所を見つけておく。 ・ 子どもが興味をもつきっかけをつくるために、先生が手の上に載せたり、生き物に触れたりして興味を示す。</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">身近な生き物に興味や親しみをもつとともに、優しく接する。</p> <p>活・ いろいろな生き物を探したり、捕まえたり、興味をもって飼ったりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; font-size: x-small;"> ◇子どもたちがよこがかりやすい生き物の例 ダンゴムシ、アリ、テントウムシ、バッタ、コオロギ、アオムシ、カマキリ、オタマジャクシ、カメ、ザリガニ、クワガタ、カブトムシ、カブトムシの幼虫、金魚、メダカなど </div> <p>支・ S児は初めてバッタをつかまえたことが嬉しくて、先生に見せるために足をつまんで持ってきた。S児が先生の所まで持ってくると、バッタは片足が取れてうまく跳ぶことができなくなっていた。先生は、「S君は先生にバッタを見せてくれようとしたんだね。両手でこうして体を持ってあげると元気なまま逃がしてあげることができたね。」と、S児の気持ちを受け止めると同時に、生き物への接し方を話して聞かせた。</p> <p>支・ 先生が生き物に優しくよこがかる姿を見せることにより生き物への関心を高め、生き物への愛情を育てる。</p>

	3歳（年少）	4歳（年中）
身近な人や地域の人などに、親しみや感謝の気持ちをもつ。	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">身近な人に親しみをもつ。</p> <p>活・ ダンスや運動などを、家の人や友達の家の人と一緒にする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; font-size: x-small;">Eちゃんのお母さんは、どうぞ食べて</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; font-size: x-small;">Gちゃんが作ったごちそう、おいしいよ。</div> </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; font-size: x-small; margin: 10px auto; width: 80%;"> おいしいね、Iちゃんのお母さんにも持って行ってあげよう。 </div> <p>支・ 参観日などを活用して、自分の家の人だけでなく、友達の家の人と触れ合う場を設ける。 ・ 登降園時に友達の家の人にあいさつがしやすい雰囲気づくりをし、保護者にも協力を求める。</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">行事や活動を通して地域の人と触れ合い、親しみをもつ。</p> <p>活・ 参観日や運動会などの行事で園を訪れる人に元気にあいさつをしたり、一緒に活動したりする。（夏祭り、焼き芋会、餅つき、生活発表会など）</p>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; font-size: x-small; margin: 10px auto; width: 80%;"> 杵にお餅がくっつくから、お水をつけてヨイショとつくんだよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; font-size: x-small; margin: 10px auto; width: 80%;"> おじさんの言ったとおりだ。 </div> <p>支・ 自分たちの生活にかかわりの深い人の存在を伝え、親しんで触れ合う場を設ける。 ・ 保護者に、園に協力をしてくださる方について知らせ、親子であいさつができるような雰囲気をつくっておく。</p>

5歳 (年長)

6歳 (小1)

園庭の花壇や鉢に植えた草花に水をやったり、飼育している生き物に触れたり、餌をやったりして愛情をもつ。

生き物を飼育したり、草花を育てたりする過程で、生と死を目のあたりにして、動植物に命があることに気づき、大切に育てようとする。

- 活**・ 園の小動物や草花の世話をする。
(餌やり、小屋掃除、水やり、草取り)
- ・ 小動物を抱いたり、なでたりして遊ぶ。

- 活**・ 小動物を飼育したり、草花を栽培したりする。
(小屋作り、小屋掃除、餌やり、観察
水やり、草取り、支柱立て)

◇ 世話をする生き物や草花 (この時期の子どもたちが育てやすい動植物) の例
うさぎ、インコ、ハムスター、ザリガニ、小魚、アサガオ、チューリップ、パンジー、サルビアなど



ご飯をたくさん食べてね。

遊ぶたくて水やりをしなかったから枯れたんだ。

ぼくの顔を見るとすぐ寄って来ていたから寂しいな。

あっ、死んでいる! 枯れている!

冷たくなってかわいそうだな。だっこすると温かくて気持ちよかったのに。

ごめんね。今度は大切にしよう。

チュンチュンって、かわいいね。

- 支**・ 餌をもらったとき、生き物が喜ぶ様子を意識させ、餌や水は、動植物の命の源であることを伝える。
- ・ 大切に世話をした花が咲いたり、生き物がなついたりする喜びを味わわせる。

- 支**・ 生き物の死などを経験した場合、楽しかった思い出や世話の仕方を振り返り、自分と同じように命あるものだということに気付かせる。

5歳 (年長)

6歳 (小1)

お年寄りや地域の人々と触れ合い、人とかかわることの楽しさや感謝の気持ちをもつ。

自分たちの生活が周りの人々に支えられていることを知り、親しみや感謝の気持ちをもつ。

- 活**・ 散歩に出かけ、地域の人にあいさつをする。
- ・ 地域の人との交流を通して、いろいろなことを教えてもらう。
- ・ 福祉施設などを訪問する。

- 活**・ 身近な施設を訪問したり探検したりする。
(郵便局、公民館、福祉施設など)
- ・ お世話になっていることに対してお礼の手紙を書く。
- ・ お年寄りに運動会の案内の手紙を書く。

優しく肩をたたいてあげよう。

気持ちがいいよ。ありがとう。

よく来てくれたね。

いろんな仕事があるんだな。

配達する人は大変だな。

こうやって手紙が届くんだね。

- 支**・ 地域の人と触れ合う機会に、知恵や工夫を意識させる。
- ・ 施設を訪問する場合、お年寄りや施設の人の健康状態や接し方について事前に話をしておく。

- 支**・ 事前に訪問先との打ち合わせを十分行い、見学態度なども指導しておく。
- ・ 訪問先でしっかりかかわりがもてるように、課題をもたせるなどの事前学習をしておく。

表現を楽しみ学びに関心をもつ子ども（1）

	3歳（年少）	4歳（年中）
身近な物の性質や特徴に気付く。	<p>土や砂を触ったり、水を流したりして、それぞれの感触を楽しむ。</p> <p>活・ 砂場で砂遊びや泥んこ遊びを楽しむ。 ・ 色水遊びやシャボン玉遊びなどを楽しむ。</p> <p>みかんジュースください。</p>  <p>支・ 思う存分遊べるように、いろいろな用具を準備しておく。 ・ 一緒に楽しみながら、子どもたちが触れて感じたことに共感する。</p>	<p>水と土、砂を混ぜるおもしろさを感じたり、水にいろいろな物を浮かべたり、風の動きに紙を飛ばしたりして、自然のおもしろさを楽しむ。</p> <p>活・ 砂場でプリン屋さんごっこを楽しむ。 ・ 風に吹かれて落ちてくる葉っぱを捕まえたり追いかけたりして遊ぶ。 ・ プールでプラスチックや木の板を浮かべてお船ごっこをする。</p> <p>A児はままごとのお椀で型抜きをしようとしているが、なかなかできない。水をかけてみるが、水をかけすぎて形がうまくできない。何度も何度も挑戦してやっと成功し、砂場の周りの木枠のうえに砂のプリンを並べ、プリン屋さんが始まった。</p> <p>水を少しにしたら？ 手でしっかり固めたらどうか？ Aちゃん、やったね！おいしそうだね</p> <p>支・ 試行錯誤する姿を大切に、機会を捉えてアドバイスをし、自然や科学的なおもしろさを、子ども自身が五感や体験を通して気付いていけるようにする。</p>

	3歳（年少）	4歳（年中）
身近な物に関心を持ち、考えたり試したり工夫したりする。	<p>身の回りにある自然物や様々な素材や用具に触れ、興味をもつ。</p> <p>活・ 草花摘みや、木の葉や木の実を拾う。</p> <p>支・ 摘んだり集めたりした自然物を飾り、触れて遊べる環境を整えておく。</p>  <p>活・ マーカーやクレヨンで好きなものをかいて遊ぶ。</p> <p>どの色にしようかな。</p> <p>支・ 子どもの表現をありのままに受け止め、表現することが楽しいと思えるような言葉がけをする。</p>	<p>身の回りにある様々な素材に親しみをもってかきわり、遊びに取り入れて楽しむ。</p> <p>活・ 草花や木の葉、木の実などの自然物を使って、思いおもいに遊び、つくったり飾ったりする。（ペンダント・冠・壁飾り・マラカスなど）</p>  <p>支・ 一人ひとりの発想や工夫を認めたり、偶然にできた形のおもしろさや、美しさにも気付くような言葉がけを行ったりする。</p> <p>活・ 空き箱や空き容器、紙やクレヨン、テープ、のりなどを使い、かいたり、つくったりする。 ・ 経験したことをかく。</p> <p>支・ 用具の使い方を具体的に知らせるとともにつくったり、飾ったりして満足感を感じられるようにする。 ・ イメージがわくような言葉がけをする。</p>

5歳 (年長)

水と土、砂の量の調節に気付き、いろいろな固さを試して楽しむ。

木の葉、木の実、雨だれなどの自然とかわることで、季節を感じ取る。

活・ いろいろな道具を使って川やダムをつくって遊ぶ。



活・ よもぎだんごをつくる

支・ 散歩で見つけたよもぎを料理して、自分たちの手でよもぎ団子づくりを経験し、みんなで作る喜びや楽しさを味わえるようにする。



しずくちゃん見つけたよ。

支・ 一人ひとりが考えたり工夫したりしているところを認め、友達と協力してつくる楽しさが味わえるようにする。

春においがするね。



6歳 (小1)

水、土、砂などの性質を取り入れ、工夫して遊んだり活動したりする。

身近な自然を観察したり、四季の変化に気付いて生活を工夫したり、楽しくしたりする。

活・ 雪の感触を確かめながら、雪玉をつくったり、そり遊びをしたりする。



両手でぎゅっと固めながら丸めるぞ。

高い所から滑ると、スピードが速くなるよ。

体を傾けたら、曲がっておもしろいよ。



支・ 工夫する姿、思考の広がり、知的な気付きなどを取り上げて価値付けたり、友達と共有できるようにしたりする。

5歳 (年長)

身の回りにある素材を使っていろいろなものを工夫してつくったり、遊んだりして楽しむ。

活・ 夏祭りや運動会、発表会などの行事やごっこ遊びに必要なものをつくる。

支・ 友達と考えを出し合い、イメージを共有する楽しさを味わわせる。
・ 子どもたちの発想を認め、アイデアを出し合い試行錯誤しながらつくる過程を楽しませる。

活・ 布や毛糸を使って、織物遊びを楽しむ。

ゆっくり引っ張ってごらん。



支・ 手先を使い集中して取り組む姿を大切にする。
・ 様子を見守りながら、一人ひとりに合わせて適切な援助を行い、やり遂げた喜びを子ども自身が実感できるようにする。

6歳 (小1)

粘土や小枝、段ボール、クレヨン、絵の具等の材料、形、色から発想し、工夫して、かいたりつくったりする。

活・ 河原で拾った石の形や色からイメージしたものを表現する。

この形は、理科室のがいこつに似てるよ。



どのマーカーなら色がよくつくかな。

支・ 材料との出合わせ方を工夫し、五感を使って材料の特徴をつかみ、発想を広げられるようにする。

表現を楽しみ学びに関心をもつ子ども（2）

	3歳（年少）	4歳（年中）
感じたことや考えたことを自分なりに表現する。	<p>思ったことや感じたことを動作や言葉で伝えようとする。</p> <p>活・ いろいろなものになりきって遊ぶ。 ・ 思ったことや感じたことを言葉や身体で伝える。</p>  <p>たくさんシャボン玉ができた！きらきらしてる。</p> <p>俺様はライオンだぞ。</p> <p>本当きれいね。</p> <p>支・ 子どものありのままの表現を受け止めたり代弁したりして、表現することの喜びや楽しさを味わえるようにする。 ・ 身体で表現する楽しさを味わえるような活動を取り入れる。</p>	<p>好きなものをつくったり、かいたり、自分のイメージを動きや言葉で表現したりするなど、様々な方法で表現しようとする。</p> <p>活・ 楽しかったことやかきたいことを絵にかく。 ・ 先生に援助してもらいながら自分のつくりたいものをつくる。</p>  <p>押しさえてあげるよ。</p> <p>輪投げが楽しかったよ。</p> <p>難しいなあ・・・</p> <p>お姫様になりたい。</p> <p>支・ 個々の表現にあった材料や用具を準備し、自由にかいたり、つくったりできる環境を整える。 ・ 表現の個人差を考慮し、一人ひとりにあった表現を認めていくようにする。 ・ 素材や絵具などの用具の使い方など、必要に応じて援助していく。</p>

	3歳（年少）	4歳（年中）
音楽に親しみ、歌ったり演奏したり身体で表現したりする。	<p>季節の歌を歌ったり、聴いたり、手遊びをしたりして楽しむ。</p> <p>活・ 季節の歌を歌う。 ・ 手作りマラカスで遊ぶ。</p>  <p>手をたたきながら歌うとおもしろいね。</p> <p>手はこうやってたたくといい音がするよ。</p> <p>支・ 楽しい雰囲気の中で歌を歌ったり、手遊びをしたりして、リズムを感じたり速さを感じたりすることができるようにする。</p>	<p>伴奏に合わせて歌ったり、簡単なリズムに合わせて身体を動かしたり、楽器を鳴らしたりして楽しむ。</p> <p>活・ 歌詞や意味を考えて楽しく歌う。 ・ 音楽に合わせて踊ったり、動物になって歩いたり止まったりして遊ぶ。 ・ 音あて遊びをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>♪の基本リズムを使って、いろいろな動物の模倣遊びをすると、「これは速いからリスさん。」「これはゆっくりじゃけーぞうさん。」と動物のイメージで音の速さを聴き分けて遊ぶことができる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>いろいろな楽器で遊んだ後、子どもたちは音あて遊びを喜ぶ。ついでその後ろで楽器を鳴らし、「何でしょう。」と尋ねると、「チーンはトライアングル。」「ドーンは太鼓、大太鼓。」と特徴や名前を覚える。</p> </div> <p>支・ 音楽を使った楽しい遊びを通して、音の強弱・高低・速さを感じることができるようにする。 ・ いろいろな楽器に数多く触れさせ、楽器の音色や特徴を感じ取れるようにする。</p>

歌・・・チューリップ、手をたたきましよう、かたつむり、アイスクリーム、きのこ、虫の声、ぶんぶんぶん、おかあさん、こいのぼり、とんぼのめがね、どんぐり坂のどんぐり、パレード等
手遊び・・・くいしんぼうのゴリラ、ひげじいさん、お弁当箱、やき芋グーチャー等

5歳(年長)

思ったことや感じたこと、イメージしたことなどを、絵や言葉や身体表現などで表す。

- 活**・ 自分なりにこだわりをもって作品をつくる(絵画や製作など)。
- ・ 自分なりの表現を友達や先生の前で発表する。



- 支**・ 個々の表現のよさや工夫したところなど具体的にほめ活動意欲を高める。
- ・ 友達の表現のよさを周囲の友達に知らせるなどし、様々な表現の仕方があることに気付かせていく。
 - ・ 自分たちの表現を発表できる場をつくり、友達の表現のよさを認め合えるようにする。

6歳(小1)

様々な表現活動を楽しみ、友達の表現のよさに気付いたり、取り入れようとしたりする。

- 活**・ 教科書で学習した「大きなかぶ」の話から、登場人物やかぶのイメージを出し合って共有したり、お面をつくって劇遊びを楽しんだりする。



- 支**・ お互いのイメージの広がりや、表現の工夫を認め合えるように言葉がけをする。

5歳(年長)

歌を歌ったり聴いたり、曲の調子に合わせてリズムを打ったり、楽器を演奏したりして楽しむ。

- 活**・ いろいろな歌を気持ちを込めたり強弱に気を付けたりして歌う。
- ・ 簡単な楽器を使って皆で一緒に演奏したり踊りを踊ったりする。



6歳(小1)

音楽を楽しんで聴いたり、表現したりしながら、様々な音楽活動を楽しむ。

- 活**・ 音楽の時間に歌ったり、簡単なメロディを演奏したり、リズム創作や身体表現をしたりする。



きくのはな、もみじ、やぎさんゆうびん、ドロップスの歌、うみ、はるよこい、さんぼ、まっかな秋、たきび、あわてんぼうのサンタクロース、大きな古時計、虫歯のこどもの誕生日、ゆき 等

- 支**・ 歌詞の意味を話したり歌い方を聴き合ったりして、気持ちを込めて歌えるようにする。
- ・ 皆で合わせる楽しさを味わわせることを通して、速さや強弱に気を付けることができるようにする。
- 支**・ 手拍子を打ったり身体表現をしたりして、リズムを感じ取って、歌ったり演奏したりできるようにする。
- ・ 楽しい音楽活動を通して基礎的な音楽表現の力を付ける工夫をする。

表現を楽しみ学びに関心をもつ子ども（3）

	3歳（年少）	4歳（年中）
様々な出来事の中で感動したことを伝え合う。	<p>信頼する身近な人たちと、会話をする喜びを知る。</p> <p>活・ ままごとや砂場などでごちそうをつくったり食べたりするまねをする。</p>  <p>先生、みてみて。 プリンみたい。 おいしそう。食べたいな。 おもしろいな。いっぱいだ。 いっぱいできたね。</p> <p>支・ つくったものを認めたり、食べたり、飲んだりするまねをしたりして楽しさが味わえるようにする。 ・ 「おいしそう」等言葉にして返したり共感したりする。</p>	<p>先生や友達の言葉や話などをよく聞き、自分自身も思いを伝えることを喜ぶ。</p> <p>活・ 友達の言動に興味や関心を持ち、話したり一緒に遊んだりする。 ・ 繰り返しのあることや響きの美しさの言葉などに興味をもつ。</p>  <p>あわ、ぶくぶくだね。 ソフトクリームみたい ふわふわしてる。 私もつくりたいな。 ほら、こうやるんだよ。ぶくぶく。 どうやってつくったの？</p> <p>支・ 一人ひとりの言葉や思いを受け止め、満足感が味わえるようにし、友達にも知らせるようにする。 ・ 言葉の音がつまみ楽しさや美しさに気付くように共感したり認めたりする。</p>

	3歳（年少）	4歳（年中）
数量や図形に関心をもつ。	<p>生活や遊びの中で数量と出会ったり、様々な形に触れたりする。</p> <p>活・ 散歩や園外保育でどんぐり等の自然物を集めて遊ぶ。 ・ ままごとや砂場、パズル等で遊ぶ。</p>  <p>同じ形のお家に返してあげてね。 見て見て、いっぱい！ 一番大きいのはどれだろうね？</p> <p>支・ いろいろな遊びの場面で形をつくって遊ぶように用意する。 ・ 量や大きさの違いを遊びの中で子どもたちが発見できるような言葉かけをする。</p>	<p>先生や友達とのやり取りの中で、長さや大きさを比べたり、自然物の多様な形に触れたりしながら、数や形への関心をもつ。</p> <p>活・ 木の実や廃材等が使いやすいように同じ物、違う物に分類する。 ・ 折り紙で形を折ったり、積み木で形を積上げたりして遊ぶ。 ・ おやつや給食を分けたり配ったりする。</p>  <p>丸くなるように重ねたんだね。 こっちとそっちを道でつなごうよ。 三角と三角をくっつけたら四角になったよ。</p> <p>支・ 生活や遊びの場面でさりげなく比べたり分けたりするように声かけをする。 ・ 遊びの中で、形を合わせたり離したりすることにより形が変化していくことを自然に気付かせるようにする。</p>

5歳(年長)

自分の思いや経験したことを相手に分かるように話したり、相手の思いを受け取ったりしながらやり取りを楽しむ。

- 活**・ みんなの前で話したり聞いたりする。
 ・ 自分の話や思いが相手に伝わったり相手の話や思いが分かったりする楽しさや喜びを感じながら遊ぶ。

Aちゃん、最初に走って！アンカーは誰にする？

Eちゃんがいいよ。

リレー、どうしたらピンクチームが勝つ？

足の速い人が先に走ってどう？

- 支**・ みんなの前で話したいという雰囲気づくりを心がけたり、伝え合ったりする楽しさが味わえたりするように工夫する。
 ・ 思いを相手に分かるように言葉で伝え、自分の考えがまとまったり深まったりする喜びが味わえるようにする。

6歳(小1)

経験したことや感じたことなどを順序に気を付けて話したり、質問したり答えたりして、伝え合う楽しさを味わう。

- 活**・ 朝の会で身近なことからテーマを見つけ発表する。

家族で買い物に行きました。



どんなお店に行ったのかな。

何を買ったのか、きいてみたいな。

- 支**・ フリートークの時間を設けてお互いの話を聞き合う機会を設定する。
 ・ 支持的風土づくりに努める。

5歳(年長)

毎日の生活の中で図形や数だけでなく、前後、左右、遠近や時刻などにも関心をもつ。

- 活**・ 時計作りやお店屋さんごっこで数字を使って遊ぶ。
 ・ 玉入れや縄跳びで数を数えたりクッキングで大きさをそろえたり多い少ないを比べたりする。

クッキングでフルーツみつ豆を作りながら、形や大きさへの意識付けができる。

白玉だんごは同じ大きさにしないと煮えにくいことを給食の先生に聞き、N児とD児は、「大きすぎる。」「これは小さい。」と同じ大きさを意識して作っていた。

フルーツの桃を切っては「三日月みたい。」とか、パイナップルを切って「これ何の形？」等と楽しい会話が聞こえたり、食べたお団子の数を比べたりして、おいしいおやつに大満足の子どもたちだった。

全部で何個できたか数えてみよう。

ボールみたいなきれいなお団子が出来たよ。

似ている形をよく見つけたね。

- 支**・ 子どもたちの数や量、形への関心に応じ、認めたりヒントを与えたりする。
 ・ 遊びの中で数を数えたり、時間を意識したりして数字に対する興味付けを必要に応じてしていく。

6歳(小1)

数量についての感覚を豊かにし、簡単な計算、長さの比較、基本的な立体図形の特徴、物の位置関係などが分かる。

- 活**・ 算数や生活の中で、100までの数を数えたり使ったりする。
 ・ 三角や円、四角などの図形の特徴を生かしてお店ごっこの準備をし、楽しむ。

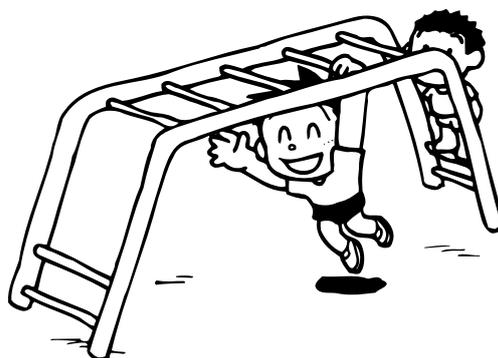
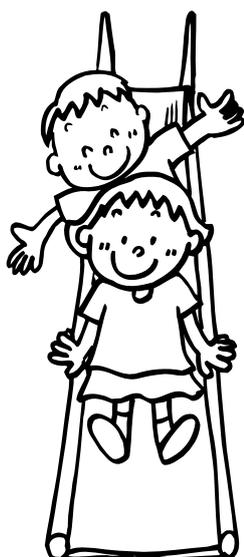
二つの商品がいつぱんに売れたら、いくらになるか紙に書いて計算するよ。



- 支**・ 算数的活動を通して、数量や図形についての感覚を豊かにする。

表現を楽しみ学びに関心をもつ子ども（4）

	3歳（年少）	4歳（年中）
文字や記号に関心をもつ。	<p>くつ箱や道具箱などに貼られた自分や友達のマーカーや名前に気づき、親しみをもつ。</p> <p>活・自分のシールを覚える。</p> <p>いるかマークだ。</p>  <p>Yちゃんはあるかマークだよ。</p> <p>活・おもちゃを片付ける。</p> <p>片付けるところが分かるように絵を描いておこう。</p>  <p>ブロックはここで、人形はこっちよ。</p> <p>支・子どもの活動の手助けとなるように、身の回りにある記号や表示が分かるようにしておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵図を中心とした表示をし、興味をもたせる。 	<p>身の回りにある様々な表示や文字などを意識し、その意味に気付く。</p> <p>シール帳、貼れたかな？</p>  <p>この看板があるときは、遊戯室はお休みだよ。</p>  <p>これを見て貼ればいいんだ。</p> <p>うさぎさんのおうちだね。</p>  <p>活・園内めぐりをして、クラスの表示などを知る。</p>   <p>支・身近にある表示や文字を見て、その意味が理解できるように、意味を知らせながら一緒に遊ぶ。</p>



5歳(年長)

遊びを通して文字などで伝える楽しさを味わい、文字や記号の役割が分かる。

活・ お店屋さんごっこの準備をする。

看板があるよね。

「き」ってどう書くの？



活・ 手紙や案内状を作って遊ぶ。



そうだね
そうしよう。

小さいクラスのみんな、きてくれるといいね。

支・ 遊びに必要な文字や数字を、身近な言葉と関連付けて知らせる。

6歳(小1)

ひらがな、カタカナ、漢字を学び、本を読んだり文章を書いたりする。

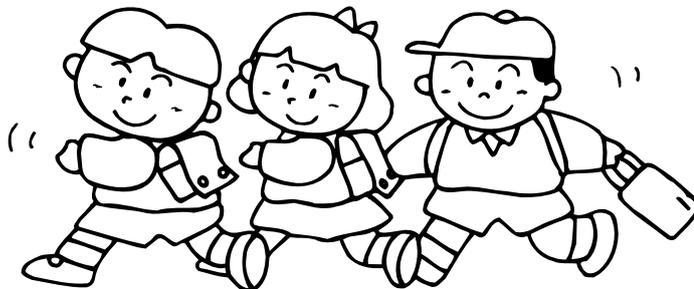
活・ 国語でひらがな、カタカナ、漢字を習得する。
・ 好きな本を選び、楽しく読書する。

たくさんの言葉が
できたね。



年という漢字
は習ったね。

支・ 言葉と関連付けて、文字を丁寧に指導する。
・ 学級文庫など読書環境を整え、子どもたちが自然に本に親しむことができるようにする。





4 「つながる子どもの育ち」の充実

ここにあげた「つながる子どもの育ち」の充実は、今の幼稚園・保育所や小学校に求められる課題に対応するため「子育て支援」「特別支援教育」の取組例や指導のポイントを紹介したものです。

また、平成16年度から、山口県教育委員会において実施されている幼児教育長期研修派遣教員からの報告例や「Q & A」も紹介しています。

これらの取組をきっかけに、それぞれの地域や幼稚園・保育所・小学校の実態に応じた指導が行われ、さらなる幼保・小の連続・一貫した指導が充実していくことを期待しています。



※ 「幼児教育長期研修」とは、小学校の教員を幼稚園に1年間派遣し、幼児期の育ちを踏まえた小学校低学年での指導の在り方についての研修を進めるもので、平成16年度からこれまで37名の研修生を派遣しています。

子育て支援

子どものよりよい育ちを実現するために、保護者の子育てに対する不安やストレスを解消し、子育ての喜びを感じられるような、幼稚園・保育所等の機能を生かした子育て支援が求められています。

1 基本的な考え方

- 子どもの最善の利益を考慮し、子育て家庭を地域全体で支援すること。
- 保護者の思いを受け止め、保護者自身が子育てを振り返り学ぶ場をつくるなどして、家庭の教育力の向上を図ること。
- 保護者とともに、子どもの成長の喜びを共有すること。
- 機能や施設を開放して、専門的知識等を生かして支援すること。
- 地域の医療、福祉等の関係機関や団体等との連携及び協力を図り支援すること。

2 支援活動

情報の提供

園・学級だより、Webページ、日々の連絡ノート、送迎時等で、子どもの思いや様子を知らせ、子育ての喜びを共感できるようにする。

子育て相談の実施

子育て相談や個人面談で、子育てを経験した保護者等からのアドバイスにより、保護者の不安が少しでも解消できるような援助する。

交流機能の充実

未就園児の親子登園や情報交換会、保護者の保育参加等により、保護者同士の交流を深め、保護者が子どもとともに育つよう支援する。

公開講座の開催

講演会や公開講座を開くことにより、育児不安の軽減を図り、子育て本来の在り方を啓発し、地域全体の家庭の教育力が向上するようにする。

関係機関との連携

児童相談所、福祉事務所、地域子育て施設、ファミリーサポートセンター等と連携を図り、障害のある子ども等には必要な支援をするようにする。

次代を担う子どもたちの育成

小・中・高生による保育体験学習等、次代を担う子どもたちに対して、子育ての意義や親の役割などについて理解を深めるようにする。

3 留意事項

- 幼稚園・保育所の活動の支障とならないように配慮する。
- 子どもをもつ保護者に限らず、広く地域の人々を対象に実施する。
- 地域の様々な人々が気軽に参加できるような雰囲気づくりや憩いの場を設定する。
- 支援活動について職員間の共通理解を図り、協力体制を整備する。

4 本県の動向

社会全体で子どもや子育てを支えていく、山口県らしい「子育て文化の創造」をめざして、今後の子育て支援や少子化対策の基本となる「子育て文化創造条例」を平成19年10月に制定

第11条(基本的施策)

- ・ 子育て文化の創造に向けた機運の醸成
- ・ 保健医療サービスの充実と健康の増進
- ・ 子育て家庭への支援の充実
- ・ 子どもの学習環境の整備充実
- ・ 職業生活と家庭生活との両立支援
- ・ 地域における子育て支援の充実
- ・ 子どもの安全確保と健全育成



5 取組例

(1) 未就園児の親子登園

子育て支援の一環として園を未就園児の親子に開放し、園の教育環境に触れながら共に遊び、様々な人とのかかわりを楽しむ機会を提供するとともに、園児たちにとって多様な経験を得られる場となるよう工夫します。

3歳：同じ部屋で様々な人と一緒に過ごすことを楽しむ。

- ・月1回程度実施
- ・事前に会員登録し、当日受付
- ・参加費（保険料）（園によって異なります。）



ようちえんって
たのしいな！

4歳：異年齢を少し意識し、クラス内の遊び場で一緒に遊ぶことを受け入れて楽しむ。



5歳：異年齢の友達と遊ぶことを目的として話し合いを重ね、遊びづくり、役割分担等、協同の活動へと展開していきながら、様々な人とのかかわりを楽しむ。

子育てについていろいろ話せたので、少し安心しました。



友達を知り自己発揮しながら協力・工夫する協同的な学びの経験が、物事を進める力となる。小学校以降の学習や生活において、物事に対する関心や意欲につながっていく。

(2) 地域子育て支援センター

地域子育て支援センターは、身近な保育所などで、子育てに関する相談や保護などの育児サークルの支援など地域の子育て支援の中核的な施設です。親子で自由に遊べる施設で、保護者同士、子ども同士の交流の場になっています。

★みんなで七夕まつり★



ペーパークラフト



ささかざりをつくったよ！



ポンポンをもって
たいそうしたよ！！

★出前講座 ～〇〇公民館★



絵本の読み聞かせ、手遊び、ふれあい遊びなどして楽しく過ごしました♪

はたけでとれたじゃがいも
とたまねぎでつくった
スープおいしかった！



スープづくり

活動内容や運営は市町によって異なります。地域の子育て支援センターの情報を積極的に収集し、保護者に提供しましょう。

特別支援教育

特別な教育的支援を必要とする子どもの指導にあたっては、一人ひとりに応じた支援を行うための工夫や配慮、また家庭や関係機関、小学校や特別支援学校との連携が大切となります。

1 1 少し気になる子どもたち ～ こんな子どもはいませんか？ ～

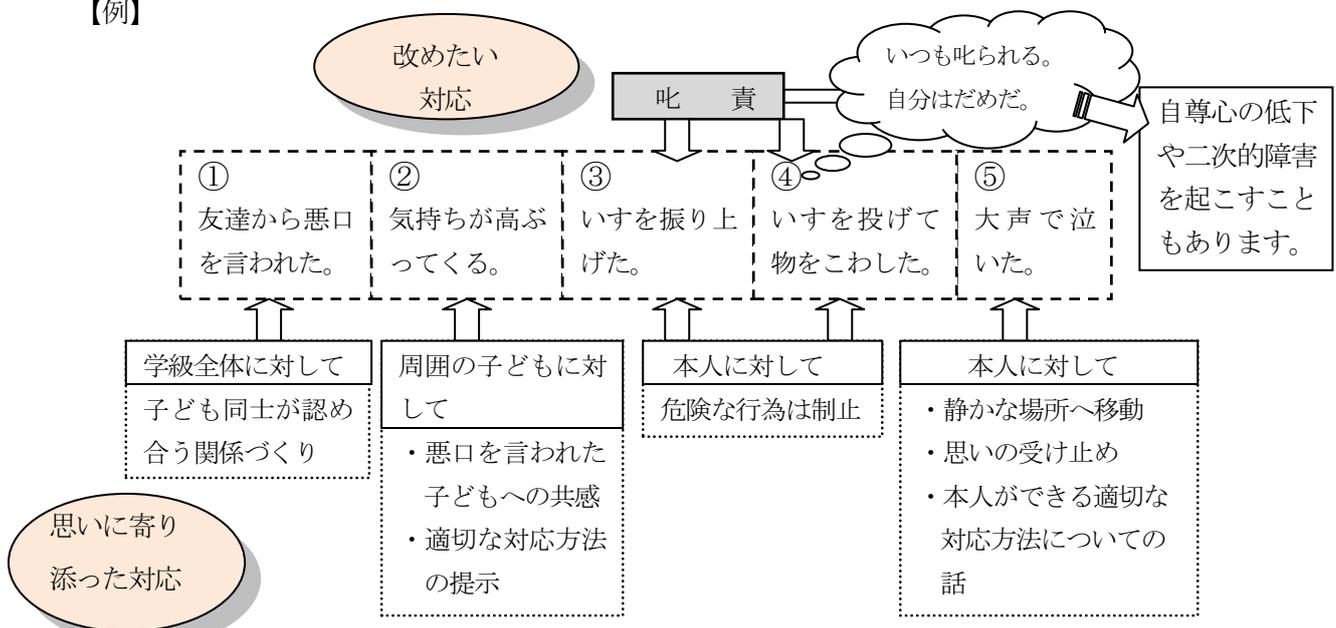
○ 園の生活や家庭で、集団での活動や行動面に困難を示す子どもはいませんか？

- ・ ちょっとしたことで、かんしゃくをおこしてしまう。
- ・ 何でもないような場面で他の子を叩いたり、蹴ったりしてしまう。
- ・ 友達の作った積み木を見るとすぐに崩してしまう。
- ・ 行事への参加が、なかなかできない。
- ・ 落ち着きがなく立ち歩き、じっと座っていることが難しい。
- ・ 同じ年齢の子どもと一緒に遊べない。いつも一人で遊んでいる。
- ・ 思ったことを全部口に出してしまい、先生の話や話を中断させてしまう。
- ・ 勝つことにこだわって、いつも一番でないと気が済まない。
- ・ 鬼ごっこなどのルールが理解できなかったり、守れなかったりする。
- ・ 活動が途中で切り換えられない。好きな遊びに夢中になり途中でやめられなくなる。
- ・ キャラクター遊びに夢中になると、現実との見境がつかなくなる。
- ・ 制作などの活動にすぐ取りかかることが難しい。
- ・ はさみやのりがうまく使えない。運動が極端に苦手である。
- ・ 話し言葉に遅れがある。相手の言葉の繰り返しが多い。
- ・ たくさんの言葉は知っているが、会話が成り立ちにくい。

～ 気になる子どもをとらえなおしてみよう ～

○ このような困難さは、程度の差はあっても誰にでもありえることです。表面的な行動にとらわれず、子どもの思いに寄り添って対応することで改善されていくこともあります。

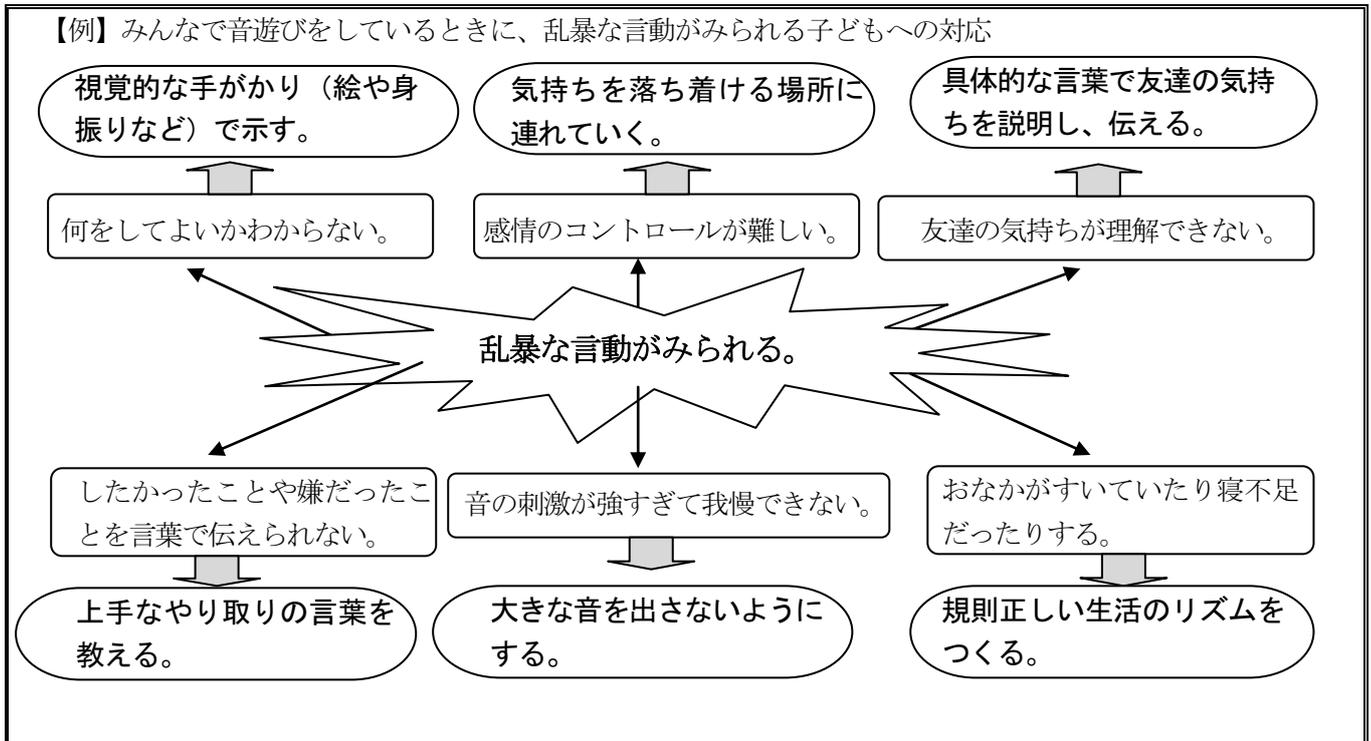
【例】



2 特性を理解した取組

～ こんな対応をしてみませんか？ ～

- 特別な教育的支援を必要とする子どもに対しては、叱ったり、がんばりを求めたりしがちです。しかし、子どもによっては、叱られる理由が分からない、何をがんばるのが分からない、がんばり続けることが



難しいなどの理由で、そのような対応では効果がないことがあります。本人の努力不足ではないので、子どもにとってはつらい経験ばかりとなり、逆に問題を悪化させてしまうことにもなってしまいます。子どもの能力や特性を理解し、適切に対応をすることで、「できた」「うまくいった」と感じ、「ほめられる」経験につなげていくことが重要です。

- ※ 子どもの行動は同じように見えても、その行動の背景は子どもによって異なります。
そのため、問題となる行動の背景を探ったうえで適切な支援を考える必要があります。

指導のポイント

- ・ 特性をつかむため、子どもの様子をよく観察しましょう。
- ・ 気になるものが視野に入らないように道具や荷物の置き方を工夫して、落ち着いた環境づくりを心がけましょう。
- ・ 子どもの思いや願いを理解しましょう。「あなたは、そう思ったのね。」と、子どもの思いに寄り添うことも大切です。
- ・ 長所や得意なことを生かす工夫をしましょう。
- ・ 子どもは「聞く」だけでは、理解することが難しいことがあります。手順や全体像等が、見て分かりやすいように、カードや写真、スケジュール表などを取り入れてみましょう。
- ・ 人とかかわる場面を意図的に設定し、人間関係を円滑にする言動を具体的に教えましょう。
- ・ 課題が複数ある時には、優先順位を付けてみましょう。一人で考えずに、複数の関係者で話し合うようにしましょう。

3 保護者との連携 ～ 一緒に育てましょう ～

- 育児に関する困難さや不安を感じている保護者が増えていると言われています。子どもの支援にあたっては、家庭と園、学校がそれぞれの役割を果たすとともに、相互に連携することが大切です。

保護者との連携のポイント

- ・ 問題だけを伝えない。
- ・ その子のよさやがんばっている様子もしっかりと伝える。
- ・ 問題に対してどのように支援し、指導したか、その結果どうなったのか、今後どのように取り組んでいきたいかについて説明する。

※ 家庭と園、学校での子どもの実態が異なる場合があるので、情報を共有することが大切です。

4 専門機関との連携 ～ 気軽に相談しましょう ～

- 下記の相談機関には、専門のスタッフがいます。相談することで、適切に対応できることが増え、問題が改善したという事例や小学校等へのスムーズな就学に結び付いたという事例もあります。

特別支援教育センター等設置校

学校名	電話番号	学校名	電話番号
☆岩国総合支援学校	0827-43-4331	☆宇部総合支援学校	0836-41-4036
☆田布施総合支援学校	0820-52-3572	下関南総合支援学校	083-232-1431
☆周南総合支援学校	0834-29-1331	☆下関総合支援学校	083-258-3033
徳山総合支援学校	0834-25-5378	豊浦総合支援学校	083-772-1331
防府総合支援学校	0835-22-6108	☆萩総合支援学校	0838-25-7280
☆山口南総合支援学校	083-986-2007	山口大学教育学部 附属特別支援学校	083-933-5480
山口総合支援学校	083-934-4811		

※☆印は、特別支援教育センター設置校
 ※下関南総合支援学校、山口南総合支援学校に視覚障害教育センター、聴覚障害教育センターを設置
 ※総合支援学校に設置されている「地域支援室」においても相談を実施

小・中学校サブセンター設置校

学校名	電話番号	学校名	電話番号
岩国市立麻里布小学校	0827-21-7222	宇部市立岬小学校	0836-31-1824
岩国市立東小学校	0827-21-2611	宇部市立神原中学校	0836-21-4232
柳井市立柳井小学校	0820-22-0620	山陽小野田市立小野田小学校	0836-83-2066
光市立室積小学校	0833-78-0010	美祢市立大嶺小学校	0837-52-0547
下松市立下松小学校	0833-41-0062	下関市立名池小学校	083-223-1335
周南市立徳山小学校	0834-22-8805	下関市立日新中学校	083-223-7259
防府市立佐波小学校	0835-21-3799	長門市立仙崎小学校	0837-26-0144
山口市立小郡南小学校	083-973-2578	萩市立明倫小学校	0838-22-5416
山口市立白石中学校	083-922-0387		

(平成23年度現在)

ふれあい教育センター
「やまぐち総合教育支援センター」
 〒754-0893 山口市大字秋穂二島1062
 TEL 083-987-1240・1241
 083-987-1243・1244
 083-987-1246
 FAX 083-987-1258
 E-mail soudan@center.ysn21.jp

山口県教育庁特別支援教育推進室
 〒753-8501 山口市滝町1-1
 TEL 083-933-4615
 FAX 083-933-4619
 E-mail a503001@pref.yamaguchi.lg.jp

5 就学に向けた取組 ～ 支援をつなぎましょう ～

- 発達障害等のある園児に対して、適切な指導や必要な支援を充実していくために、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成することが有効です。「個別の教育支援計画」とは、幼稚園や保育所から学校卒業後までの長いスパンで、一貫した支援を行うための計画です。必要に応じて、医療、保健、福祉、労働等の関係機関と連携して、必要な支援を行うことができます。

「個別の指導計画」は、「個別の教育支援計画」を1年間の指導のために具体化したもので、年間目標や学期の目標等を設定し、目標を達成するための具体的な手だてを検討します。

「個別の教育支援計画」を引き継ぐことで、幼稚園・保育所で行われてきた支援を確実に小学校等につなぐことができます。また、小学校等では、「個別の教育支援計画」に基づき、就学後に必要な支援を行うための体制を整備することもできます。

「個別の指導計画」例（○学期）

○○保育園

学年・組		年長○○組	○○○	
		指 導 記 録		
学期の指導目標		指導内容・指導方法・手だて等	指導の経過と評価	
教科・領域等	聞く・見る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 椅子に座って10分程度の説明を聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚的な教材を掲示する。 ・ 分かりやすい伝え方（具体的に、メリハリをつけて、一文一動詞）を工夫する。 ・ 着席している時を見つけて賞賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵や写真など視覚的な掲示物があると、10分以上の話も集中して聞くことができた。しかし、興味・関心がもてない話題については5分程度で動き始めるため座って聞いているときにほめている。
	人間関係・集団参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 順番を守って待つことができる。 ・ 鬼が出てくる遊びのルールを理解し、集団遊びを楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目に見える形で順番を意識させる。 ・ どれだけ待てばよいかを理解できるよう、待つ人数を伝える。 ・ 待つことによって楽しめたという経験の場を設定する ・ 遊ぶ前に、絵カードを使い鬼と鬼以外の役割を伝えておく。 ・ 役割による動き方を教師も一緒に遊びながら教える。 ・ ルールにそって行動した結果、楽しめたことを共感的に喜び合い、ほめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 並べたフープの中を移動させたり、あと何人待てばよいかを伝えたりすることで、待てることが増えてきた。まだ長い時間を待つことは難しいため、短時間で順番が回ってくる活動を仕組むようにした。 ・ ルールがよく分からないため、自分勝手に動く場面もあるが、教師と一緒に遊ぶことで役割が理解できてきているようだ。遊んだあとに「楽しかったね。」と自分から話しかけてくることもあった。

障害のある幼児児童生徒の教育の場

地域の小・中学校

※ 就学についての相談は、各市町教育委員会で行っています。

○ 通常の学級

一斉の授業の中で、障害に配慮し、指導内容・方法を工夫して学習の理解を進めています。机間指導などを利用して個別の指導も行います。学級の中での人間関係を育てる指導を行っています。

○ 特別支援学級

知的障害、自閉症・情緒障害などの障害の種別ごとに、小・中学校に設置されており、8人以内を基準とする少人数の学級です。障害の状態等に応じて、通常の学級の児童生徒とともに学習をすることもあります。

○ 通級による指導

小・中学校の通常の学級に在籍し、大部分の指導を通常の学級で受けながら、障害の状態等に応じて特別の指導を受けます。自立活動（学習や生活面での困難を軽減したり改善したりすることを目的とした活動）の指導が中心ですが、教科の補充を行う場合もあります。

特別支援学校

山口県には13校（うち県立12校）あります。県立特別支援学校は、原則として、視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱の5つの障害を対象としています。特別な教育課程を編成し、障害の状態等に応じた、より専門性の高い教育が行われています。スクールバスを運行している学校もあり、通学に利用することが可能です。

《幼児教育長期研修派遣教員からの報告①》

幼保・小の交流活動に向けて



幼保・小の連携には、具体的にどんなことから取り組めばよいのでしょうか。
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」では、幼保・小連携を図るために、交流の機会を設けることなどが求められています。

4～5月

- 1年生担任が中心になって幼保・小連携について年間計画を作成し、全教職員に周知
 - ・ 幼保教職員の授業参観
 - ・ 生活科で園児との交流活動

6月

- 小学校の授業公開・情報交換会
 - ・ 年間を通じた交流を打診し、授業参観の案内を送付
 - ・ 地域の4園から授業参観

(参観された園の先生より)

今までも、参観したいと思ってました。学校から誘いがあったので参観することができて、よかったです。

- ・ 情報交換会

放課後、4園を訪問し、各園で情報交換

(内容)

- ・ 小学校での様子を見ての感想
- ・ 児童の園の時の様子や配慮事項
- ・ 児童との交流活動のお願い (校区内の2園)

7月

- 交流活動の計画立案

8月

- 教職員の合同研修
 - (内容) ・ 園の取組について
 - ・ 交流活動 (生活科) について



造形活動についての合同研修

10月

- 小学校の授業公開
 - ・ 案内を送付、授業参観

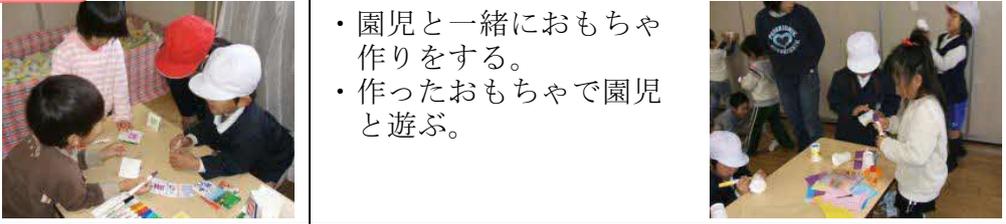
11月
～12月

- 交流活動 生活科「あそびのでまえ大きくせん」

2月

- 幼稚園・保育所の保育参観・情報交換会

生活科「あそびのでまえ大きくせん」指導計画（総時数17時間）

次	時	ねらい	主な学習活動
1	1	単元のねらいを知り、1回目の交流活動の計画を立てることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・一年前を振り返り、園児だった時の思い出を話し合う。 ・学習のねらいを知る。 ・園で、一緒にどんな遊びができるかを話し合う。 ・園に行く準備をする。
	2		
	1回目の交流活動		
	3	幼児と児童が楽しく触れ合うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをし、一緒に歌遊びをする。 ・導入の歌遊びは、園の先生にお願いしておく。
	4		
			
5	交流活動を振り返り、感想を發表することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・園での様子を絵と文で表す。 ・みんなに發表する。 	
6			
2	1	1回目の交流活動をもとに、2回目の交流活動（遊びの出前）の計画を立てることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目の交流活動を振り返り、次回、園に遊びを出前し、おもちゃを作って楽しむ意欲をもつ。 ・グループで話し合い、出前したい遊びを決め、おもちゃ作りの計画を立てる。
	2		
	3	おもちゃを作り、楽しむことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃを作り、遊び方を工夫する。（ぶんぶんごま、けんだま、ジャンプがえる、紙コップロケットなど）
	4		
	5	出前のリハーサルを行い、触れ合いの仕方についてグループで考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・園児のことを考えて、おもちゃ作りの教え方や遊び方を話し合う。 ・出前リハーサルをし、グループ相互に園児の立場で感想を話し合う。 ・がんばることや気を付けることを發表する。
	6		
	7		
	8	グループで協力して準備に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・作り方、遊び方について友達の意見も参考に、園でやることを話し合う。 ・園に行く準備をする。
2回目の交流活動			
9	園児と楽しく触れ合うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・園児と一緒におもちゃ作りをする。 ・作ったおもちゃで園児と遊ぶ。 	
10			
			
11	交流活動を振り返り、感想を發表することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・園での様子を絵と文で表す。 ・みんなに發表する。 	



小学校から、幼稚園や保育所に連絡を取り、できることから少しずつ交流活動を進めましょう。交流活動は、単発的なものではなく、年間を見通して計画的に行うことが大事です。また、幼稚園、保育所、小学校がはっきりとしたねらいをもって行うことが成果につながります。

《幼児教育長期研修派遣教員からの報告②》

一貫性のある環境構成の工夫

子どもたちの育ちは幼保・小とつながり、緩やかに成長していきます。入学初期の環境構成は、幼稚園・保育所と連携して行うことで教育効果があがります。

例えば、幼稚園・保育所の「自由に活動ができる場づくり」や「分かりやすい掲示物」等を参考に、小学校の指導を工夫することが大切です。特に、見て分かる掲示物の効果は大きく、子ども自身が考えながら行動するための手助けになっています。



動的な活動のできる広い教室での授業

幼稚園・保育所では一日の大半が子どもの主体的な遊び（動的な活動）によって、時間が過ぎていきます。

そのため、小学校入学時には、長い時間椅子に座って学習することを苦痛に感じる子どももいます。そこで、小学校入学初期には、学習の中に、体を動かす活動をたくさん取り入れて学習を進める方が子どもの集中力が続くと考え、本校では、簡単なゲームなどができるスペースのある広い教室を1年生が使用することにしました。



教室内に遊びコーナーを設置

幼稚園・保育所の各部屋にはブロックや積み木、オルガン、絵本、お絵かき道具、折り紙等、子どもたちがいつでも自由に使って遊ぶことができるものが設置されています。

そこで、小学校でも、「学校は勉強するところ」と言い聞かせるのではなく、幼稚園・保育所の部屋と似た空間を教室の隅につくり、「大好きな遊びが学校に行けばできる」「お友達と一緒に○○をしたい」と、子どもが思える魅力的なものを用意することも必要ではないかと考え、教室内に「遊びコーナー」を設置しました。



幼保・小共通の「聞く」「話す」の掲示

幼保・小の子どもの育ちに目をむけ、発達課題を「基本的生活習慣」「伝え合う」「かかわる」「活動への意欲」の4項目からとらえ、「〇〇版つながる子どもの育ち」を作成し、日々の保育や授業で、子どもの育ちを高めていくことにしました。

なかでも、幼児や児童が共に遊び、学ぶために欠かせないのが、「伝え合う」ための「聞く」と「伝える」です。そこで、この「伝え合う」力や「聞く」「話す」マナーを日頃の生活の中で身に付けるために、幼保・小共通の約束をつくり、近隣の3園1校に掲示して指導しました。



子どもたちが時間を意識できる掲示

幼稚園・保育所は緩やかな生活時程ですが、小学校では、生活時程が細かく分けられています。そのため、チャイムを聞いたり時計を見たりして行動する必要があります。

入学初期は小学校の生活に少しずつ慣れていく時期であるので、①のように時間の流れを意識しながら見通しをもって活動できる掲示物を用意しました。また、②のような短針と長針が動く時計を用意し、指示を

①

②

出す時には「長い針が6になったら休み時間が終わりなので、教室に帰ってくる」等、子どもたちが自分で時間を意識して生活できるように工夫をしました。



休み時間の終わりを示す時刻

《幼児教育長期研修派遣教員からの報告③》
 小学校入学時のスタートカリキュラムの実践例



「スタートカリキュラム」とは、児童が義務教育の始まりにスムーズに適応していけるようなカリキュラムを構成することです。例えば、小学校1学年において、教科を横断した大単元から各教科の単元へと分化していく教育課程を編成することが考えられます。具体的には、生活科において学校探検する学習活動を行い、そこで発見した事柄について伝えたいという児童の意欲を生かして、国語科、音楽科、図画工作科においてそれぞれのねらいを踏まえた表現活動を行うなど合科的・関連的に扱うことが考えられます。

スタートカリキュラム作成における留意点

[幼稚園・保育所では]	そこで	[小学校では]
○ 各領域の内容を、幼稚園・保育所生活全体を通して幼児が様々な体験を積み重ねることで、総合的に指導する。	➡	① 教科、道徳、特別活動などの内容を合科的・関連的に扱い、大きな単元を構成する。
○ 遊びの中で幼児が発達していく姿を様々な側面から総合的にとらえ、発達に必要な経験が得られるよう留意する。	➡	② 単元または1単位時間の中での複数の教科の目標や内容を組み合わせ、児童が具体的かつ総合的に学習できるよう工夫する。
○ 幼児期の特性を踏まえ、幼児の生活を大切にした「環境を通して行う教育」を基本とする。	➡	③ 単元の中では、児童自らの思いや願いの実現にむけた活動を、弾力的な時間の運用等の中で進めていくようにする。

生活科の特性を生かしたスタートカリキュラムの取組

入学から4週間目まで、週ごとにテーマを決め、その週の終わりには、テーマをまとめた指導を行いました。生活科の趣旨を生かした「気づきの高まり」をねらい、第1・2週・・・「はじめまして、学校」、第3週・・・「はじめまして、ともだち」、第4週・・・「はじめまして、先生」、第5週・・・「これからのぼくたち・わたしたち」という単元構成を意識してみました。

第1・2週「はじめまして、学校」						
	8日(金)	11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)
朝学		学習準備・健康観察 (挨拶・返事)	学習準備・健康観察 (挨拶・返事)	学習準備・健康観察 (挨拶・返事)	学習準備・健康観察 (挨拶・返事)	学習準備・健康観察 (挨拶・返事)
1		国 絵本読み聞かせ 学 学級のきまり 引き出し・ロッカー	国 絵本読み聞かせ 道 学校のきまり 廊下の歩き方	国 絵本読み聞かせ 体 体操服の着替え方 並び方	国 絵本読み聞かせ 学 学級や学校の きまり	国 絵本読み聞かせ 算 オリエンテーション 道 「たのしいがっこう」
2		道 学校のきまり トイレの使い方 靴箱・傘立て	国 せんのおけいこ 鉛筆の持ち方・姿勢 初めて書いた名前	行 検査の受け方 身体測定(保健室) 体 体操服の着替え方	学 遊具の使い方 体 遊具・鉄棒遊び 整列・鬼ごっこ	国 せんのおけいこ みつけたよ 声のちゃんねる
3	行 入学式	生 学校たんけん (保健室・職員室) 学 下校準備	図 すきなもの いっぱい クレヨンの使い方	学 筆箱の中身 生 がっこうだいすき ゲームをしよう	生 学校たんけん (2年生と一緒に)	図 みてみていっぱい いつくったよ (粘土遊び)
4	学 きょう から 1年生		音 手遊び・リズム歌 学 たのしい給食 (6年生と一緒に)	音 手遊び・リズム歌 学 たのしい給食 (6年生と一緒に)	音 手遊び・リズム歌 学 たのしい給食 (6年生と一緒に)	音 手遊び・リズム歌 学 たのしい給食 (6年生と一緒に)
5	行・行事 学・学活 生・生活	道・道徳 国・国語 図・図工	音・音楽 体・体育 算・算数	国 絵本読み聞かせ 生 自己紹介を しよう(授業参観)	国 絵本読み聞かせ 音 うたでなかよし になろう・校歌	保 耳鼻科検診 生 がっこうだいすき 1週間を振り返って



また第3週目の「はじめまして、ともだち」では、生活科「ともだちいっぱい」の名刺交換の際に、国語「はきはきあいさつ」や、算数「5までのかず」、音楽「てとてであいさつ」、道徳「あいさつ」等の内容を、合科的な活動として仕組んでいきました。

毎週金曜日は1週間のサイクルを意識させるために、その週のまとめとなる指導や「学校が楽しみ！」という次週への意欲付けも継続して行うようにしました。

スタートカリキュラムの考え方は、実は、これまでも入学当初において行われてきたものです。生活科を核として他の教科も関連付けながら、4～5週間のカリキュラムを計画し、実践することを通して、改めて幼児教育との連携における生活科の役割を感じました。



《幼児教育長期研修派遣教員からの報告④》

授業づくりの工夫 ～なめらかな移行を図るために～

「幼児教育長期研修」を通して、「幼児教育の大切さ」や、それにかかわる「教師や保育士の姿勢のすばらしさ」などを学びました。次に紹介するものは、研修後1年生を担当したときの実践です。就学前教育から小学校教育へのなめらかな移行を図ることができるよう、研修で学んだことを活用しながら取り組んでいます。



算数『なんばんめ』

視覚に訴える分かりやすい授業

園児は絵本の読み聞かせが大好きで、身を乗り出して聞いていました。視覚に訴える挿絵が、ストーリーの理解を助け、お話をより楽しく演出しているからでしょう。

1年生の授業でも、視覚からの情報が理解を助けるよう、板書や教具の工夫をしています。

前から3番目は、だれでしょう？



さらに

身体活動を取り入れた授業

幼児期は、五感と全身を使って環境と主体的にかかわる中で様々な学びをしてきています。聴覚・視覚に加え、体を動かすことでさらに理解を深めることができます。また、これまで席に着いての活動が少なかったため、入学当初は45分間の中に体を動かす活動を取り入れるようにしました。



前から9人は、立ちましょう！

算数『どちらがながい』

遊びの要素を取り入れた活動

『くらべんジャー』に変身した1年生に、次々と「ながさくらべ」の依頼がやってきます。学習にストーリー性をもたせ、マントを着用させると、児童は意欲的に長さ比べに取り組むことができました。



操作活動の重視

算数では、算数ボックスをしっかり活用して操作活動を取り入れたり、ゲームを通して習熟を図ったりするような授業を仕組みました。写真に示すように、「一方の端をそろえて、重ねたり並べたりして長さを比べる」という操作活動を通して、長さの計測の仕方を理解できるようにしました。

シンデレラの絵本の縦と横は、どちらが長いでしょう？テープを重ねて比べてみよう！



「ぐにやぐにやへび」をまっすぐにのばして、長さを比べよう！

学習形態の工夫

本学級は12名という少人数学級のため教室のスペースにもゆとりがあり、活動内容により学習形態を工夫することにも取り組んでみました。活動がしやすいだけでなく、子ども同士の学び合いや触れ合いにもつなげることができました。

半円形の座席：互いの顔が見え、机間指導も容易にできます。



床にシートを広げて：絵や工作は床でのびのびと。クレヨンの箱がひっくり返ることもありません。



和室で：ひざをつき合わせてゲーム。(じゅうたんを広げて：絵本の読み聞かせ)



基礎・基本の徹底

幼稚園や保育園では、用具の持ち方・使い方・片付け方など基礎・基本を徹底するときと、子どもの主体性に任せて自由に活動させるときとをはっきり区別して指導していました。

下の写真は、絵の具を使用するときの用具の置き方を子どもたちと確認したところです。水入れ・パレット・筆ふきタオルの位置を工夫することで、使いやすくなりました。



複数園からの就学への配慮

本学級は、少人数にもかかわらず、4つの園から就学してきています。体験の相違に配慮するとともに、入学当初は特に人間関係づくりを重視しました。

早くできた児童はミニ先生として友達に教えたり、グループ活動を取り入れたりしました。子どもたちは、あっという間に出身園を感じさせないほど仲良くなっていくことができました。



小学校の教員が就学前の子どもの育ちの実態を知らないために、就学前に育った学びの芽を十分に伸ばせなかったり、指導内容が逆戻りしたりすることもあるように思いました。

「子どもの育ちがつながっている」ことを意識しながら、今後も交流の中で、お互いの指導内容や指導方法、子どもの見方を相互理解していきたいと思えます。



幼保・小一貫指導のためのQ & A

Q 幼稚園・保育所と小学校との違いは何ですか？

A 幼稚園・保育所では、おおまかな時間設定の中で、生活や遊びを通した総合的な指導がなされています。それに対して小学校では、決められた生活時程の中で、教科の学習を中心とした指導がなされています。

Q 幼稚園教育要領、保育所保育指針とはどのようなものですか？

幼稚園・保育所のことを知りたい

Q 幼稚園・保育所では「遊び」をどのようにとらえていますか？

A 各幼稚園、保育所で適切な教育課程・保育計画を編成（作成）、実施するために国（幼：文部科学大臣、保：厚生労働大臣）が示したものです。教育にかかわるねらい及び内容には、5領域として、健康・人間関係・環境・言葉・表現があります。（保育所保育指針には、養護にかかわるねらい及び内容も示されています。）

A 幼稚園・保育所では、「遊び」は幼児の心と身体の総合的な発達を促すものです。一つの「遊び」は、様々な学びを導き出し、幼児は「遊び」を体験することによって、そのおもしろさや楽しさ、困難さなどに気づき、もっと楽しむためにはどうしたらよいかと、試行錯誤を繰り返します。この経験が、小学校での学習の基盤になっています。

Q 幼稚園・保育所で行われている「協同して遊ぶ」とはどのようなことですか？



A 幼児は、友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見い出し、友達と工夫したり協力したりします。「協同して遊ぶ」とは、幼児が一緒に活動するだけでなく、共通の目的に向かって互いに協力し合う中で、話し合い、分担し、工夫し合うことです。こうした体験を通して、幼児は、一人ではできないことを友達と一緒に実現していく楽しさを感じたり、友達との葛藤やトラブルを乗り越えていくことを繰り返したりして、人とかかわる力を培っていきます。

特に、年中後期から年長にかけて活発になっていく「協同して遊ぶ」ことで育つ力は、小学校での学びにつながる力の一つです。

Q 学習指導要領とは、
どのようなものですか？

小学校の
ことを
知りたい

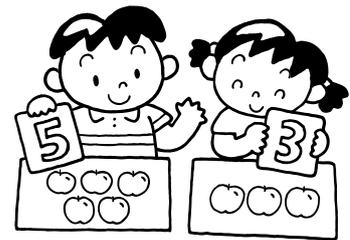
Q 小学校入学までに身に付けて
いて欲しいことは何ですか？

A 教育課程の基準として、文部科学大臣が公示したものです。小学校の教育課程は、「国語」「社会」「算数」「理科」「生活」「音楽」「図画工作」「家庭」及び「体育」の各教科、「道徳」「外国語活動」「総合的な学習の時間」並びに「特別活動」によって編成され、それぞれの目標や各学年の目標及び内容が示されています。

A 小学校という新しい環境に慣れるため、子どもたちには入学前に、自分のことは自分でできることや、人とかわかる力を身に付けておくことが大切です。また、小学校での学習を支えるのは、入学前の早期教育で身に付く学力ではなく、様々な経験、いろいろなことに向けられる興味・関心などです。そしてそれらは、幼稚園や保育所で子どもたちが遊んだり活動したりする中で培われていきます。

幼保・小連携
について

Q 幼保・小連携について、幼稚園教育要領、
保育所保育指針、小学校学習指導要領には、
どのように示されているのですか？



A 現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領には、連携について次のように記されています。

【幼稚園教育要領】（平成20年3月告示）

第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項

第1 指導計画の作成に当たっての留意事項

2 特に留意する事項

(5) 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図るようにすること。

【保育所保育指針】（平成20年3月告示）

第4章 保育の計画及び評価

1 保育の計画

(三) 指導計画の作成上、特に留意すべき事項

エ 小学校との連携

(ア) 子どもの生活や発達の連続性を踏まえ、保育の内容の工夫を図るとともに、就学に向けて、保育所の子どもと小学校の児童との交流、職員同士の交流、情報共有や相互理解など小学校との積極的な連携を図るよう配慮すること。

【小学校学習指導要領】（平成20年3月告示）

（総則）

第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

(12) 学校がその目的を達成するため、地域や学校の実態等に応じ、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深めること。また、小学校間、幼稚園や保育所、中学校及び特

別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習や高齢者などとの交流の機会を設けること。

（生活）

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

(3) 国語科、音楽科、図画工作科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に、第1学年入学当初においては、生活科を中心とした合科的な指導を行うなどの工夫をすること。

（国語）

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

(6) 低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、幼稚園教育における言葉に関する内容などとの関連を考慮すること。

（音楽）

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

(4) 低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、幼稚園教育における表現に関する内容などとの関連を考慮すること。

（図画工作）

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

(5) 低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、幼稚園教育における表現に関する内容などとの関連を考慮する



Q 幼保・小連携における「接続期」とは、
どういうことですか。

A 幼保・小の連携を進め、一貫した指導を行うためには、幼児期と児童期をつながりとして捉え、幼児期と児童期の教育双方が接続を意識する期間を「接続期」というつながりとして捉えることが大切です。

接続期は、幼児期の教育から児童期の教育への単なる準備期間や馴れの期間と捉えるべきではなく、幼児期全体と児童期全体を通じた子どもの発達や学びの連続性を意識する中で、幼児期の年長から児童期（低学年）の期間における子どもの発達や学びの連続性を踏まえて捉えることが必要です。

小学校におけるスタートカリキュラムも接続期における教育課程の工夫といえます。また、幼稚園・保育所においても接続期における教育内容や方法を工夫していくことが大切です。

【参考】

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」平成22年11月

御活用ください!

「つながる子どもの育ち」改訂版は、Webページにも掲載しています。

義務教育課Webページ「つながる子どもの育ち」
(URL <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50900/tunagaruko/top.html>)

Webページには、本書に掲載した以外の幼児教育長期研修派遣教員の報告や就学前教育と小学校の連携の推進に関する資料も載せています。併せて御活用ください。

《 Webページに掲載されている幼児教育長期研修派遣教員からの報告》

- 遊びの中で培われる「生きる力」の基盤
- 遊びの中で楽しむ造形活動
- 遊びの中で楽しむ運動
- 「遊び」から「発表」へ
- 生き物への愛情を育む飼育活動
- 食べ物への感謝の気持ちを育む栽培活動
- 協同的な活動を楽しむ
- 思いやりの心を育む異年齢児との活動
- 絵本や物語に親しむ読み聞かせ
- 保護者と連携した取組
- 授業づくりの工夫
- 遊びタイム
- 一貫性のある環境構成の工夫
- 初めての幼保・小の交流活動まで
- 年長児と1年生の交流活動（生活科）
- 給食交流会及び給食参観
- 幼保・小連絡協議会
- 幼稚園・保育所の教員・保育士への授業公開
- 小学校教員による保育所研修
- 幼保・小一貫指導推進小学校全体計画
- 幼保・小一貫指導推進小学校年間計画

「つながる子どもの育ち」に関する問い合わせ先
山口県教育庁義務教育課指導班

TEL 083-933-4600

FAX 083-933-4609

E-mail a50900@pref.yamaguchi.lg.jp

「つながる子どもの育ち」平成16年3月策定(幼・保・小連携推進協議会委員)

No	氏名	所属	職	備考
1	野波 健彦	山口大学教育学部	教授	学識経験者・会長
2	安部 由香	県公立幼稚園PTA連合会	会長	幼稚園PTA
3	杉山 美羽	Teku2(てくてく)	会員	子育て支援団体
4	村田 正樹	周南教育事務所	所長	教育事務所長代表
5	松田美千代	国公立幼稚園連盟	常任理事	国公立幼稚園連盟代表
6	中村 芳生	えんしん幼稚園	園長	私立幼稚園協会代表
7	児玉 好美	柳井市ルンビニ保育園	主任	保育協会代表
8	波多野昭世	小野田市立本山小学校	校長	小学校校長会代表
9	中村ひとみ	周南市教育委員会	係長	市町村教育委員会・専門委員長
10	正木 圭子	宇部市立博愛幼稚園	教諭	公立幼稚園教諭
11	宮崎 昭子	光市立つるみ幼稚園	教諭	〃
12	山本 京子	周南市立福川南幼稚園	教諭	〃
13	林 和子	山口市立平川幼稚園	主任	〃
14	富津田 香	岩国東幼稚園	教諭	私立幼稚園教諭
15	上田 恵子	双葉幼稚園	主任	〃
16	津田 恵子	山口県鴻城高等学校附属幼稚園	教諭	〃
17	木藤由美恵	下関国際高等学校付属幼稚園	教諭	〃
18	美輪佳代子	菊川町立保育園	園長補佐	保育所保育士
19	難波真理子	周南市立菊川保育園	副園長	〃
20	濱村 紀江	萩市立土原保育園	保育士	〃
21	宗里 照美	若葉保育園	保育士	〃
22	坂田 康代	菊川町立岡枝小学校	教諭	小学校教諭
23	高原 永子	山口市立大殿小学校	教諭	〃
24	小河 泰史	阿東町立德佐小学校	教諭	〃
25	金子 明美	美祢市立於福小学校	教諭	〃
26	中野 政彦	厚狭教育事務所	指導主事	教育事務所指導主事
27	坂本 哲彦	岩国教育事務所	指導主事	〃
28	田中 友子	萩教育事務所	指導主事	〃

※平成16年3月のものです。

「つながる子どもの育ち」改訂版(子育て支援連携推進委員会委員)

No	氏名	所属	職	備考
1	相原 次男	宇部フロンティア大学	副学長	学識経験者・会長
2	小西 哲也	山口県教育庁	審議監	県教育委員会・副会長
3	岡田小百合	山口県国公立幼稚園PTA連合会	常任理事	幼稚園PTA
4	牧中 マリコ	山口県PTA連合会	家庭教育委員長	県PTA
5	原田貴美代	美祢幼稚園	園長	私立幼稚園協会代表
6	藤田 陽子	下関市立江浦幼稚園	園長	国公立幼稚園連盟代表
7	林 和子	山口市立山口保育園	園長	保育協会代表
8	岸田 カナエ	山口市立大内南小学校	校長	小学校校長会代表
9	水野智恵子	山口県母子保健推進協議会	副会長	母子保健推進
10	久保田美代	NPO法人 あっと	代表理事	子育て支援団体
11	柏木 裕美	光市福祉保健部子ども家庭課	係長	山口県市町保健師研究協議会
12	松田 伸宏	山口市教育委員会	課長	市町教育委員会学校教育課
13	大崎 悦子	長門市福祉課子ども未来室	室長	市町保育所担当部局

「つながる子どもの育ち」改訂版(子育て支援連携推進委員会ワーキング委員)

No	氏名	所属	職	備考
1	川崎 徳子	山口大学教育学部	講師	学識経験者・ワーキング総括
2	寺田 明美	山口市立堀保育園	主任	公立保育所
3	笹尾 恵子	須恵保育園	主任	私立保育所
4	古賀 はるみ	下関市立豊浦幼稚園	教諭	公立幼稚園
5	多田 智子	山口市立吉敷幼稚園	主任	〃
6	冨津田 香	岩国東幼稚園	教頭	私立幼稚園
7	末永 昌子	長門市立油谷小学校	教諭	幼児教育長期研修派遣教員
8	野村 理映	下関市立岡枝小学校	教諭	〃
9	新谷 悦子	宇部市立二俣瀬小学校	教諭	〃
10	前田 康子	周南市教育委員会	課長補佐	市町教育委員会幼稚園担当
11	西川麻里子	光市立室積小学校	教諭	地域コーディネーター
12	前崎 勝則	周南総合支援学校	教諭	地域コーディネーター

※平成23年12月のものです。

※使用イラストの一部はMPC編集部刊「スクールイラスト集1～3」より